

第3章 50代就業者のライフイベントと成人キャリア発達との関連の検討

1. はじめに

50歳代の在職者の場合、10代後半あるいは20代前半で学校卒業し、仕事に就いてから約30年以上の時間が経過していることになる。そのような長い年月の間には、仕事や個人の生活に関わる様々な出来事が生じているだろう。個人の現在のキャリアは過去の様々な経験の上に形作られたものであり、その意味において、現在に至るまでの過去の生活で個人が経験した出来事は、個人のキャリア形成に大きな影響を与えていると考えられる。

本研究で実施した調査では、「仕事」と「家庭」に関して個人が経験する可能性があると思定される様々な出来事を各31項目用意した。そして、「仕事」と「家庭」のそれぞれに関して、最も重大だったと思われる項目を10代～50代の各年代について1項目ずつ選択してもらった。本章では、「仕事」と「家庭」に関して個人が経験した出来事をライフイベントと呼び、個人の属性や現在に至るキャリアとの関連から、「仕事」と「家庭」に関するどのようなライフイベントが、個人にとって重大な意味をもって受け止められているのかということ明らかにする。

2. 分析の視点

(1) 取り上げる変数

本研究では、調査の中で用意されている「Ⅲ. これまでの職業や経歴（キャリア）に関するあなたのお考えについて、おうかがいします」という設問の間23-1および間23-2への回答を中心として分析する。間23-1は、「10代～50代の各年代において『仕事』に関する最も重大だった出来事を31項目の中から一つだけ選択してください」という設問である。また、間23-2は、間23-2と同様の質問であるが「家庭」に関する最も重大だった出来事を1つだけ選択してもらう設問となる。「仕事」と「家庭」に関して用意された選択肢を図表3-1、図表3-2に示す。

回答の分析にあたっては、「仕事に関する重要なイベント」と「家庭に関する重要なイベント」という大きな区切りで分け、50歳代の回答者がどのようなライフイベントを重要だと感じてきたのかをそれぞれの区切り毎に整理する。最初に回答者全体のデータをまとめて分析するが、「仕事」と「家庭」という枠組みでのイベントとなると、性別による違いが大きいことが考えられるので、必要に応じて男女別での集計も行う。

また、調査票の「Ⅴ. これからの職業や経歴（キャリア）に関するあなたのお考えについて、おうかがいします」という設問に用意されているいくつかの項目との関連についても分析する。

図表3-1 仕事に関する出来事を選択肢

| | | | | | |
|----|--------------|----|--------------|----|--------|
| 1 | 大学、大学院への進学 | 11 | 独立、開業 | 21 | 配属先の変更 |
| 2 | 留学 | 12 | 転職 | 22 | 部下ができる |
| 3 | 学校卒業 | 13 | 再就職 | 23 | 管理職になる |
| 4 | 求職・就職活動開始 | 14 | 休職・仕事中断 | 24 | 転勤 |
| 5 | アルバイト・パート・派遣 | 15 | 復職 | 25 | 単身赴任 |
| 6 | 正社員として就職 | 16 | 仕事内容の変更 | 26 | 会社の移転 |
| 7 | 家業をつぐ | 17 | 職場の対人関係でトラブル | 27 | 会社の倒産 |
| 8 | 資格取得 | 18 | 仕事上の大きな失敗 | 28 | 失業 |
| 9 | 資格取得の勉強開始 | 19 | 仕事上の大きな成功 | 29 | 退職(引退) |
| 10 | 見習い・研修開始 | 20 | 昇進・昇格 | 30 | 定年退職 |
| | | | | 31 | その他 |

図表3-2 家庭に関する出来事を選択肢

| | | | | | |
|----|-----------|----|------------|----|----------|
| 1 | 郷里を離れる | 11 | 子どもの結婚 | 21 | 郷里に帰る |
| 2 | 親からの経済的自立 | 12 | 子どもが家を出る | 22 | 親と同居 |
| 3 | 配偶者と出会う | 13 | 孫の誕生 | 23 | 親の病気・けが |
| 4 | 結婚 | 14 | 家・土地を購入 | 24 | 親の入院 |
| 5 | 離婚 | 15 | ローンを組む | 25 | 親との死別 |
| 6 | 子どもの誕生 | 16 | 借金等、負債を背負う | 26 | 配偶者との死別 |
| 7 | 子どもの入学 | 17 | ローン・借金返済 | 27 | 自分の病気・けが |
| 8 | 子どもの卒業 | 18 | 破産 | 28 | 自分の入院 |
| 9 | 子どもの受験 | 19 | 転居 | 29 | 家族の病気・けが |
| 10 | 子どもの就職 | 20 | 改築・リフォーム | 30 | 家族の入院 |
| | | | | 31 | その他 |

注:「31 その他」を選んだ場合は具体的な内容を書き込む自由記述欄が用意されている。

(2) データの属性

今回の分析の対象となった回答者の性別および年齢階級別（50歳代前半、後半）の人数の内訳を図表3-3に示す。50歳代前半の男性が最も多く（約44%）、次に、50歳代後半の男性（約30%）、50歳代前半の女性（約13%）、50歳代後半の女性（約12%）という内訳となっている。なお、本稿では変数として取り上げなかったが、「配偶者」と「子供」の有無の状況は以下の通りである。男性1,532名のうち「配偶者あり」は1,496名（97.7%、うち「子供あり」は91.7%）、「配偶者無し」は32名（2.1%）、女性518名のうち「配偶者あり」は413名（79.7%、うち「子供あり」は87.4%）、「配偶者無し」は103名（19.9%）であった。

図表3-3 回答者の性別・年齢階級別の内訳

| | 50-54歳 | 55-59歳 | 計 |
|----|-----------------|----------------|-----------------|
| 男性 | 911名 44.44% | 621名 30.29% | 1532名 74.73% |
| 女性 | 275名 13.41% | 243名 11.85% | 518名 25.27% |
| 計 | 1186名 57.85% | 864名 42.15% | 2050名 100% |

3. これまでの職業や経歴に関する回答結果

(1)「仕事」に関する重要なイベント

①各年代別のイベント選択率

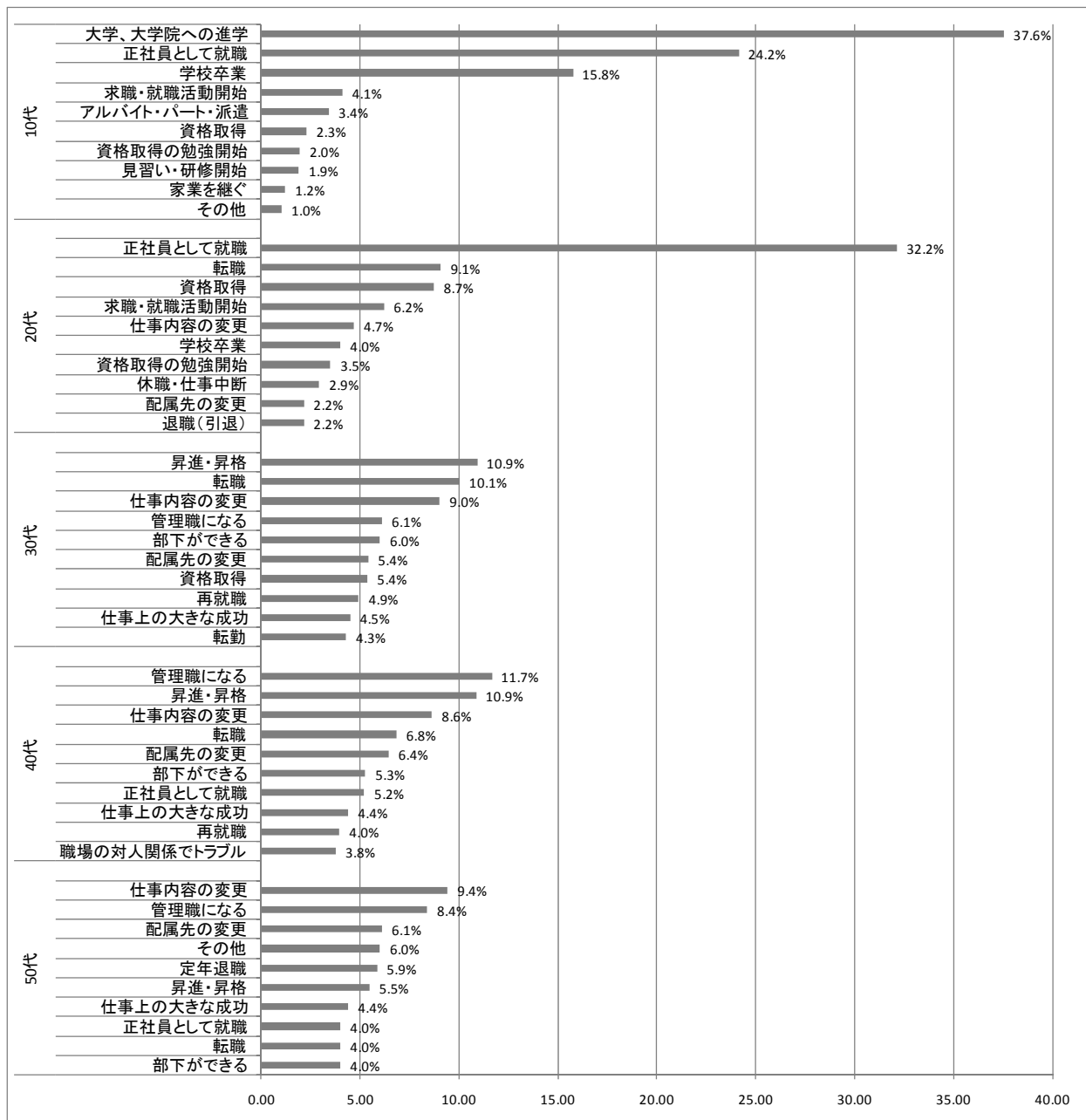
「仕事」項目として用意された31項目について、10代から50代の各年代で一番重要だった出来事として選択された項目の度数を集計した。図表3-4に、選択者数が多かった上位10項目と各項目の選択率(%)を示す。図表3-5は、これをグラフにしたものである。

図表3-4 仕事に関する各年代の選択項目(全データ込み)

| TOP 10 | 10代 | | 20代 | | 30代 | | 40代 | | 50代 | | |
|-----------|-----|--------------|-------|-----------|-------|-----------|-------|--------------|-------|-----------|------|
| | 項目 | (%) | 項目 | (%) | 項目 | (%) | 項目 | (%) | 項目 | (%) | |
| 仕事 | 1 | 大学、大学院への進学 | 37.56 | 正社員として就職 | 32.15 | 昇進・昇格 | 10.93 | 管理職になる | 11.66 | 仕事内容の変更 | 9.41 |
| | 2 | 正社員として就職 | 24.15 | 転職 | 9.07 | 転職 | 10.05 | 昇進・昇格 | 10.88 | 管理職になる | 8.39 |
| | 3 | 学校卒業 | 15.76 | 資格取得 | 8.73 | 仕事内容の変更 | 9.02 | 仕事内容の変更 | 8.63 | 配属先の変更 | 6.10 |
| | 4 | 求職・就職活動開始 | 4.10 | 求職・就職活動開始 | 6.20 | 管理職になる | 6.10 | 転職 | 6.83 | その他 | 6.00 |
| | 5 | アルバイト・パート・派遣 | 3.41 | 仕事内容の変更 | 4.68 | 部下ができる | 6.00 | 配属先の変更 | 6.44 | 定年退職 | 5.85 |
| | 6 | 資格取得 | 2.29 | 学校卒業 | 4.00 | 配属先の変更 | 5.41 | 部下ができる | 5.27 | 昇進・昇格 | 5.46 |
| | 7 | 資格取得の勉強開始 | 1.95 | 資格取得の勉強開始 | 3.51 | 資格取得 | 5.37 | 正社員として就職 | 5.22 | 仕事上の大きな成功 | 4.39 |
| | 8 | 見習い・研修開始 | 1.90 | 休職・仕事中断 | 2.93 | 再就職 | 4.93 | 仕事上の大きな成功 | 4.39 | 正社員として就職 | 4.00 |
| | 9 | 家業をつぐ | 1.22 | 配属先の変更 | 2.15 | 仕事上の大きな成功 | 4.49 | 再就職 | 3.95 | 転職 | 4.00 |
| | 10 | その他 | 1.02 | 退職(引退) | 2.15 | 転職 | 4.29 | 職場の対人関係でトラブル | 3.76 | 部下ができる | 4.00 |

まず、年代別にどのような項目が選択されているかをみる。10代では、「大学、大学院への進学」や「正社員として就職」、「学校卒業」など、教育課程から職業の世界への移行に関連する項目の選択率が上がっている。20代では、「正社員として就職」が1位になるが、10代ではみられなかった「転職」が2位に入る。「資格取得」や「仕事内容の変更」という項目も選択率が上がっている。30代では、20代ではみられなかった「昇進・昇格」、「転職」、「仕事内容の変更」が上位3位を占める。「管理職になる」という項目も4位に見られ、これは40代で選択率が1位となる。40代では、「管理職になる」、「昇進・昇格」、「仕事内容の変更」が上位3位となり、「転職」の選択率は30代よりも低くなる。50代では、「仕事内容の変更」、「管理職になる」、「配属先の変更」となり、40代と内容が少し変わってくる。

なお、上位項目の選択率を見ると、10代では、上位3位の項目の選択率が約37%~16%と高く、数個の項目に選択者が集まっているが、年代が上がるにつれて上位の項目でも選択率はそれほど高くなり、特定の項目に偏らず、選択される項目がばらついてくることが示されている。



図表3-5 仕事に関する出来事の各年代別上位10項目の選択率(%)

②年代をこみにした時のイベントの選択率

仕事に関する項目の選択率をみると、各年代において共通に選択率が高い項目もあれば、特定の年代で選択率が高い項目もある。そこで、全年代をこみにした時、選択率の合計が高い項目は何かを調べてみた。選択率の高い順に1位から31位までをランキングした結果を図表3-6に示す。

図表3-6 年代をこみにした場合の「仕事に関する出来事」の選択率(%)のランキング

| 順位 | 内容 | 選択率 (10-50代 込み) |
|----|--------------|-----------------------|
| 1 | 正社員として就職 | 69.76 |
| 2 | 大学、大学院への進学 | 38.69 |
| 3 | 仕事内容の変更 | 32.08 |
| 4 | 転職 | 30.73 |
| 5 | 昇進・昇格 | 29.37 |
| 6 | 管理職になる | 26.83 |
| 7 | 資格取得 | 22.39 |
| 8 | 配属先の変更 | 20.2 |
| 9 | 学校卒業 | 19.86 |
| 10 | 部下ができる | 16.34 |
| 11 | 仕事上の大きな成功 | 14.98 |
| 12 | 再就職 | 13.71 |
| 13 | その他 | 13.22 |
| 14 | 転勤 | 11.8 |
| 15 | 職場の対人関係でトラブル | 11.67 |
| 16 | 求職・就職活動開始 | 10.88 |
| 17 | 資格取得の勉強開始 | 10.24 |

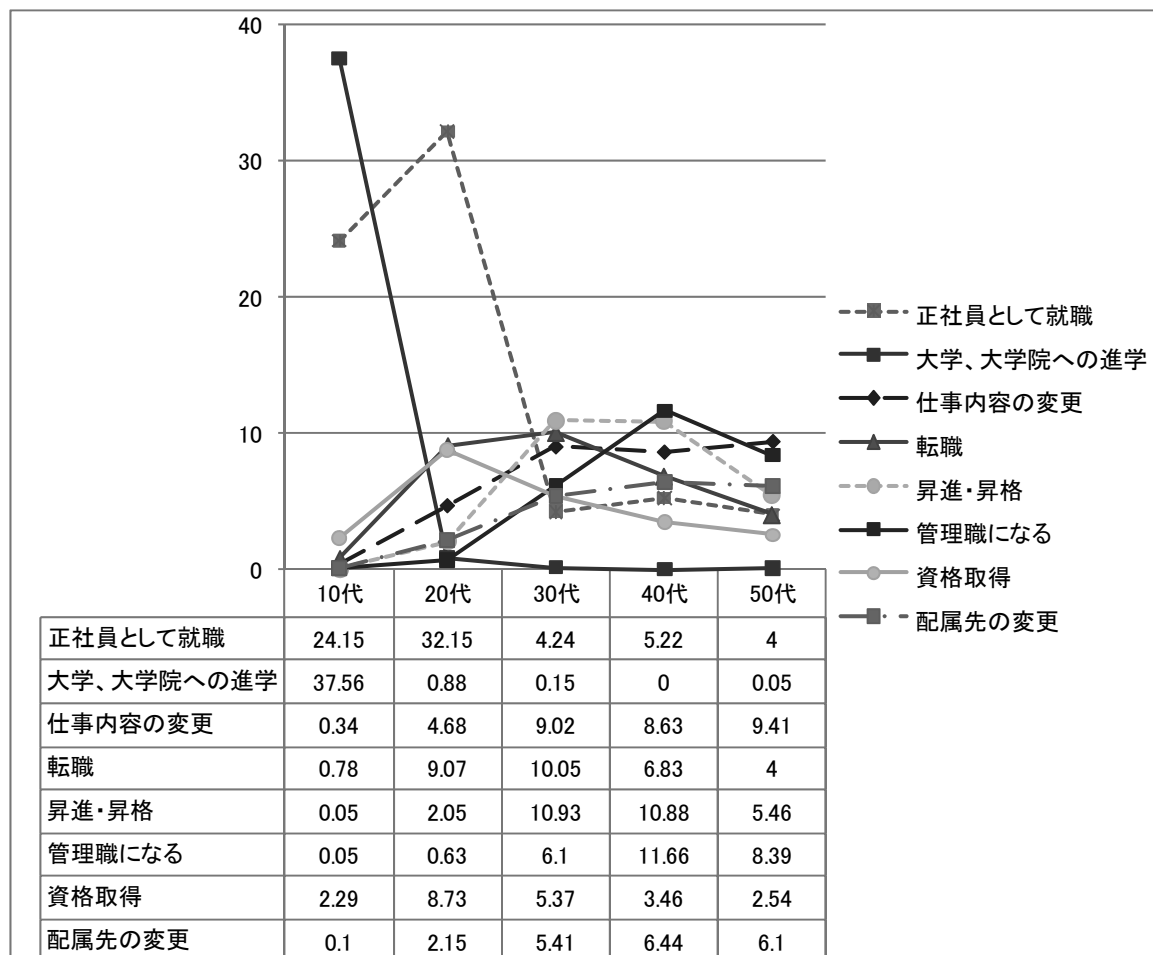
| 順位 | 内容 | 選択率 (10-50代 込み) |
|----|--------------|-----------------------|
| 18 | アルバイト・パート・派遣 | 8.04 |
| 19 | 休職・仕事中断 | 7.91 |
| 20 | 単身赴任 | 6.35 |
| 21 | 退職(引退) | 5.86 |
| 22 | 定年退職 | 5.85 |
| 23 | 家業を継ぐ | 5.51 |
| 24 | 会社の倒産 | 5.32 |
| 25 | 会社の移転 | 5.18 |
| 26 | 独立、開業 | 4.09 |
| 27 | 見習い・研修開始 | 3.95 |
| 28 | 仕事上の大きな失敗 | 3.81 |
| 29 | 失業 | 3.12 |
| 30 | 復職 | 3.07 |
| 31 | 留学 | 1.42 |

全年代をこみにしたとき、選択率の合計が一番高かったのは、「正社員として就職」で約70%の割合を占める。この項目は仕事に関する出来事として、年代を通して一番大きな意味を持っていることが示唆されている。2位以下の項目は30%台となり、1位に比べると選択率が低い。2位は「大学、大学院への進学」であるが、年代別の図表3-4をみると10代での選択率の高さが全体の合計に反映した結果であり、20代以降の選択率はほとんどない。3位から8位までは、年代別で見ても上位10位までのランキングに入っている項目である。ただ、これらの項目についても、年代によって選択率が少しずつ違っている。そこで、全年代を通して選択率が20%以上となった上位8位までの項目を取り上げ、これらの項目が各年代でどのように選択されているかを調べた(図表3-7)。

まず、「正社員として就職」は20代での選択率が最も多く、次が10代であった。30～50代では、5%程度となっている。「大学・大学院への進学」は10代での選択が40%弱で最も高く、後の世代ではほとんど選択されていない。「仕事内容の変更」は、10代、20代、30代と連続して多くなり、40代で若干減るが、50代で最も多くなっている。年代の経過とともに、起こりやすくなるイベントであるといえる。「転職」は、10、20、30代と上がり、いったんピークとなるが、40代、50代で少しずつ減少する。20代、30代で多く見られるイベントのようだ。「昇進・昇格」は、30代、40代で多くなっている。「管理職になる」は、40代、50代が多いが、後はそれほど高くない。「資格の取得」は、20代がピークで、年代とともに少しずつ減少する。「配属先の変更」は、10代、20代よ

りも 30 代以降で多くなっている。

このように、年代を込みにして選択率が高かった共通の 8 項目だけを取り上げてみた場合にも、年代によって選択率の割合は変わり、重要に思ったり印象が強かったりする出来事は年代によって異なることがわかった。



図表3-7 上位8イベントの年代別選択率の違い

③男女差

ライフイベントについては、性別による選択傾向の違いがみられると考えられるが、この調査で扱っているデータは75%が男性であるので、男性の回答傾向を反映している可能性がある。そこで、各年代で選択率の高かった上位10個について男女別に選択率を算出して比較した。「仕事」に関する項目をまとめたものが図表3-8である。

10代では男女とも上位3位のイベントの内容は変わらない。「大学、大学院への進学」、「正社員として就職」、「学校卒業」という項目の選択率が高い。

20代では、1位は、「正社員として就職」という項目で男女とも同じであるが、2位

以下が異なる。男性では、「資格取得」、「転職」と続くが、女性では、「求職・工作中断」が2位、「退職(引退)」が3位となる。女性の場合、結婚等を機に仕事を辞めるという選択が多くなり、その影響が現れるようだ。

30代では、男女で選択される項目の内容がかなり違ってくる。男性では、「昇進・昇格」、「転職」、「仕事内容の変更」、「管理職になる」という項目の選択率が高く、仕事の中でいろいろな経験をし、職位が上がっていくキャリアが示されている。他方、女性は、選択率の上位項目に「休職・工作中断」、「再就職」、「アルバイト・パート・派遣」、「正社員として就職」という項目が並ぶ。退職しないまでも仕事を休んだり、20代で退職した場合には再就職したり、非正規の働き方となったり、というような項目が選ばれる。

40代では、男性の場合、「管理職になる」、「昇進・昇格」、「仕事内容の変更」、「転職」等の項目が上位に見られる。また、割合は高くないが、「単身赴任」や「転勤」という項目も10位以内に入っている。女性では「正社員として就職」が最も高く、「仕事内容の変更」、「再就職」、「転職」という項目が選択される。女性の場合、40代で仕事に戻るパターンが見られる。また、割合は少ないが「管理職になる」という項目が初めて10位以内に入る。なお、男女ともに40代では30代までになかった「職場での対人関係でトラブル」という項目が上位10位以内に入る。40代は、男性も女性も仕事のキャリア上、様々な出来事が起こってくる時期のようである。

50代は、男性の場合、「仕事内容の変更」、「管理職になる」、「配属先の変更」、「定年退職」が並ぶ。女性の場合には、「正社員として就職」、「その他」、「仕事内容の変更」、「資格取得」の他、「管理職になる」や「部下ができる」という項目が見られる。また、「職場での対人関係でトラブル」という項目も40代に引き続き、50代でも見られる。

このように男女別に各年代のイベントを見てみると、10代までは同じイベントが選択されるが、20代以降、選択される内容がかなり異なることが示されている。女性の場合は、20代、30代で退職したり、休職したり、働き方を変えたりし、40代や50代で再び仕事に戻るといったパターンが多いようだ。この結果をみると、全体データの集計の結果は、男性の選択率のパターンに近く、調査データにおける男性の比率の高さが結果にも反映されているといえよう。

図表3-8 男女別に見た各年代の「仕事」に関するイベントの選択率

| | 男性 | | 女性 | | |
|-----|----|--------------|---------|--------------|---------|
| | | (%) | | (%) | |
| 10代 | 1 | 大学、大学院への進学 | (40.73) | 大学、大学院への進学 | (28.19) |
| | 2 | 正社員として就職 | (22.78) | 正社員として就職 | (28.19) |
| | 3 | 学校卒業 | (14.82) | 学校卒業 | (18.53) |
| | 4 | アルバイト・パート・派遣 | (4.05) | 求職・就職活動開始 | (5.02) |
| | 5 | 求職・就職活動開始 | (3.79) | 資格取得の勉強開始 | (4.83) |
| | 6 | 見習い・研修開始 | (2.22) | 資格取得 | (3.47) |
| | 7 | 資格取得 | (1.89) | その他 | (1.74) |
| | 8 | 家業を継ぐ | (1.44) | アルバイト・パート・派遣 | (1.54) |
| | 9 | 資格取得の勉強開始 | (0.98) | 見習い・研修開始 | (0.97) |
| | 10 | 転職 | (0.91) | 仕事内容の変更 | (0.77) |
| 20代 | 1 | 正社員として就職 | (33.09) | 正社員として就職 | (29.34) |
| | 2 | 資格取得 | (9.99) | 休職・仕事中断 | (10.62) |
| | 3 | 転職 | (9.66) | 退職(引退) | (8.30) |
| | 4 | 求職・就職活動開始 | (6.59) | 転職 | (7.34) |
| | 5 | 仕事内容の変更 | (4.96) | 学校卒業 | (5.02) |
| | 6 | 資格取得の勉強開始 | (4.18) | 求職・就職活動開始 | (5.02) |
| | 7 | 学校卒業 | (3.66) | 資格取得 | (5.02) |
| | 8 | 配属先の変更 | (2.42) | 仕事内容の変更 | (3.86) |
| | 9 | 昇進・昇格 | (2.28) | 再就職 | (3.09) |
| | 10 | 転勤 | (1.89) | その他 | (2.51) |
| 30代 | 1 | 昇進・昇格 | (14.10) | 休職・仕事中断 | (11.97) |
| | 2 | 転職 | (11.49) | 再就職 | (11.78) |
| | 3 | 仕事内容の変更 | (10.25) | アルバイト・パート・派遣 | (8.49) |
| | 4 | 管理職になる | (7.64) | 正社員として就職 | (7.14) |
| | 5 | 部下ができる | (7.31) | その他 | (5.98) |
| | 6 | 配属先の変更 | (6.40) | 転職 | (5.79) |
| | 7 | 資格取得 | (6.14) | 仕事内容の変更 | (5.41) |
| | 8 | 仕事上の大きな成功 | (5.35) | 復職 | (4.63) |
| | 9 | 転勤 | (4.83) | 資格取得 | (3.09) |
| | 10 | 正社員として就職 | (3.26) | 転勤 | (2.70) |
| 40代 | 1 | 管理職になる | (14.03) | 正社員として就職 | (13.90) |
| | 2 | 昇進・昇格 | (13.58) | 仕事内容の変更 | (9.46) |
| | 3 | 仕事内容の変更 | (8.36) | 再就職 | (9.07) |
| | 4 | 転職 | (7.31) | 転職 | (5.41) |
| | 5 | 配属先の変更 | (7.18) | 資格取得 | (5.21) |
| | 6 | 部下ができる | (6.40) | アルバイト・パート・派遣 | (4.83) |
| | 7 | 仕事上の大きな成功 | (5.16) | 管理職になる | (4.63) |
| | 8 | 単身赴任 | (4.37) | その他 | (4.44) |
| | 9 | 転勤 | (3.79) | 職場の対人関係でトラブル | (4.25) |
| | 10 | 職場の対人関係でトラブル | (3.59) | 配属先の変更 | (4.25) |
| 50代 | 1 | 仕事内容の変更 | (10.70) | 正社員として就職 | (11.20) |
| | 2 | 管理職になる | (9.79) | その他 | (8.11) |
| | 3 | 配属先の変更 | (6.85) | 仕事内容の変更 | (5.60) |
| | 4 | 定年退職 | (6.59) | 資格取得 | (4.44) |
| | 5 | 昇進・昇格 | (6.07) | 管理職になる | (4.25) |
| | 6 | その他 | (5.29) | 部下ができる | (4.05) |
| | 7 | 仕事上の大きな成功 | (4.96) | 配属先の変更 | (3.86) |
| | 8 | 転職 | (4.11) | 退職(引退) | (3.86) |
| | 9 | 部下ができる | (3.98) | 転職 | (3.67) |
| | 10 | 職場の対人関係でトラブル | (3.79) | 職場の対人関係でトラブル | (3.67) |

(2)「家庭」に関する重要なイベント

①各年代別のイベント選択率

「家庭」に関する重要な出来事として、年代別に選択された1項目を選択率の順に10位までランキングした(図表3-9)。これをグラフにまとめたものが図表3-10である。

10代では、「郷里を離れる(32.68%)」と「親からの経済的自立(26.59%)」が際だって高い。20代では「結婚」が48.05%と最も高く、約半数の5割が選択している。続いて、「親からの経済的自立(14.54%)」、「配偶者と出会う(11.76%)」となる。30代では、「子どもの誕生(25.17%)」が20%以上で最も高く、次に「結婚(18.73%)」、「子どもの入学(11.41%)」、「家・土地の購入(11.22%)」が高い。40代では、10%以上の項目は少なくなり、「子どもの受験(18.10%)」、「家・土地を購入(13.95%)」のみである。50代では、「子どもの就職(12.59%)」、「親との死別(10.68%)」が10%以上の選択率となった。

全体の傾向を見ると、「家庭に関する出来事」においても、「仕事に関する出来事」と同様に、10代、20代は一つか二つの項目の選択率が高くなり、共通に選択される項目が決まっている。それに対して、30代以降は、選択される項目が分散するため、各項目の選択率は相対的に低くなる傾向が認められた。

図表3-9 家庭に関する各年代の選択項目(全データ込み)

| TOP 10 | 10代 | | 20代 | | 30代 | | 40代 | | 50代 | |
|-----------|-----------|-------|-----------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|-------|
| | 項目 | (%) | 項目 | (%) | 項目 | (%) | 項目 | (%) | 項目 | (%) |
| 1 | 郷里を離れる | 32.68 | 結婚 | 48.05 | 子どもの誕生 | 25.17 | 子どもの受験 | 18.10 | 子どもの就職 | 12.59 |
| 2 | 親からの経済的自立 | 26.59 | 親からの経済的自立 | 14.54 | 結婚 | 18.73 | 家・土地を購入 | 13.95 | 親との死別 | 10.68 |
| 3 | 配偶者と出会う | 6.88 | 配偶者と出会う | 11.76 | 子どもの入学 | 11.41 | 親との死別 | 8.88 | 子どもの受験 | 8.88 |
| 4 | 親と同居 | 5.95 | 子どもの誕生 | 6.39 | 家・土地を購入 | 11.22 | 子どもの入学 | 6.39 | ローン・借金返済 | 6.93 |
| 5 | その他 | 3.85 | 郷里を離れる | 2.98 | 子どもの受験 | 4.00 | 子どもの就職 | 6.10 | 子どもの結婚 | 6.78 |
| 6 | 親との死別 | 2.24 | 家・土地を購入 | 1.76 | 配偶者と出会う | 3.51 | ローン・借金返済 | 4.34 | 孫の誕生 | 5.66 |
| 7 | 転居 | 2.05 | 親との死別 | 1.76 | ローンを組む | 3.12 | 子どもの卒業 | 3.61 | 子どもが家を出る | 4.78 |
| 8 | 親の入院 | 1.37 | 郷里に帰る | 1.27 | 離婚 | 2.93 | ローンを組む | 3.51 | 自分の病気・けが | 4.15 |
| 9 | 自分の病気・けが | 0.98 | 転居 | 1.12 | 親との死別 | 2.63 | 転居 | 3.27 | 親の病気・けが | 3.90 |
| 10 | 自分の入院 | 0.83 | 自分の病気・けが | 0.88 | 転居 | 2.15 | 子どもの誕生 | 3.12 | 改築・リフォーム | 3.17 |

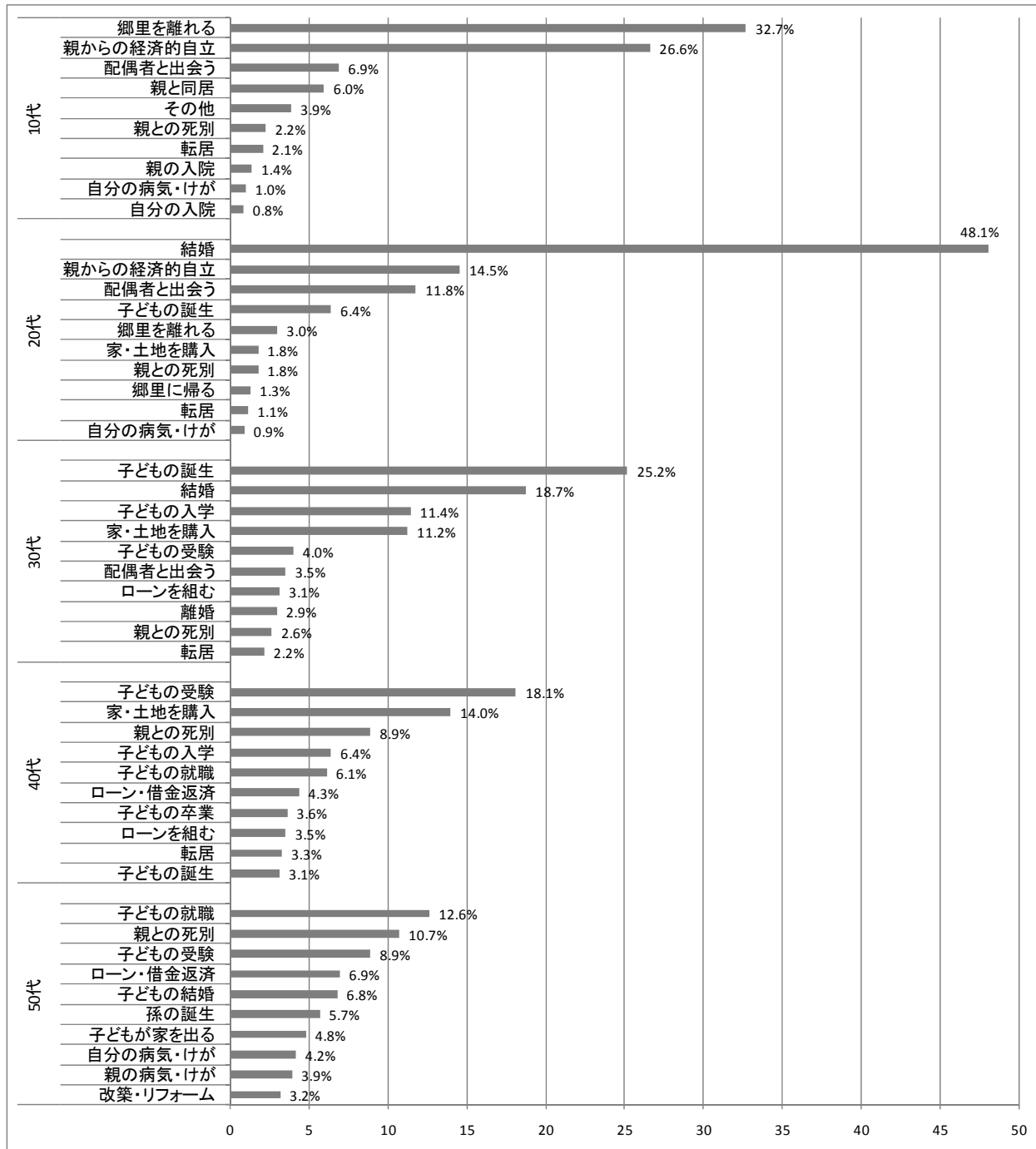
②年代をこみにした時のイベントの選択率

「仕事に関する出来事」と同様に、「家庭に関する出来事」の項目についても、全部の年代をこみにして選択率の高い順に31項目を並べてみた(図表3-11)。

家庭に関する項目の選択率についても、仕事についての項目と同様に、各年代において共通に選択率が高い項目もあれば、特定の年代で選択率が高い項目もある。そこで、全年代をこみにした時、選択率の合計が高い項目は何かを調べてみた。選択率の高い順に1位から31位までをランキングした結果を図表3-11に示す。

1位~3位は、「結婚」、「親からの経済的自立」、「郷里を離れる」で主に10代~30代の時に選択されたイベントが上位となっている。その後は、「子どもの誕生」、「子どもの

受験」など子どもに関連した項目がある。6位～8位には「家・土地を購入」、「親との死別」、「配偶者と出会う」という項目があり、その後、「子どもの入学」、「子どもの就職」など、子どもに関連した項目が選択されている。



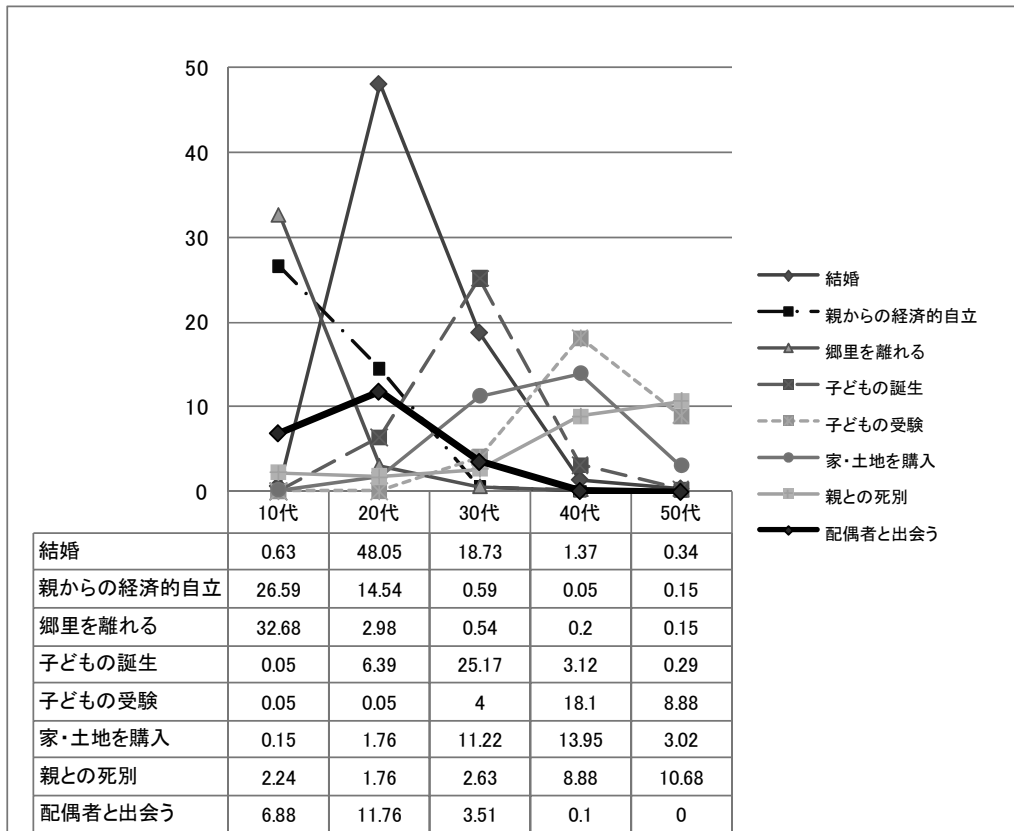
図表3-10 家庭に関する出来事の各年代別上位10項目の選択率(%)

図表3-11 年代をこみにした場合の「家庭に関する出来事」の選択率(%)のランキング

| 順位 | 内容 | 選択率 (10-50代 込み) | 順位 | 内容 | 選択率 (10-50代 込み) |
|----|-----------|-----------------------|----|------------|-----------------------|
| 1 | 結婚 | 69.12 | 18 | その他 | 8.00 |
| 2 | 親からの経済的自立 | 41.92 | 19 | 自分の入院 | 7.52 |
| 3 | 郷里を離れる | 36.55 | 20 | 子どもが家を出る | 7.47 |
| 4 | 子どもの誕生 | 35.02 | 21 | 孫の誕生 | 7.08 |
| 5 | 子どもの受験 | 31.08 | 22 | 改築・リフォーム | 6.97 |
| 6 | 家・土地を購入 | 30.10 | 23 | 親の病気・けが | 6.92 |
| 7 | 親との死別 | 26.19 | 24 | 親の入院 | 6.43 |
| 8 | 配偶者と出会う | 22.25 | 25 | 離婚 | 5.32 |
| 9 | 子どもの入学 | 19.66 | 26 | 家族の入院 | 4.88 |
| 10 | 子どもの就職 | 18.94 | 27 | 家族の病気・けが | 3.66 |
| 11 | ローン・借金返済 | 12.93 | 28 | 借金等、負債を背負う | 2.78 |
| 12 | 転居 | 10.30 | 29 | 郷里に帰る | 2.44 |
| 13 | 親と同居 | 9.46 | 30 | 配偶者との死別 | 1.36 |
| 14 | 子どもの結婚 | 9.37 | 31 | 破産 | 0.49 |
| 15 | 自分の病気・けが | 9.14 | | | |
| 16 | 子どもの卒業 | 8.59 | | | |
| 17 | ローンを組む | 8.39 | | | |

次に、「仕事」についての項目と同様に、全年代をこみにしたとき、選択率が20%を超えている8項目（1位「結婚」から8位「配偶者と出会う」まで）を取り上げて、年代別のグラフにまとめた(図表3-12)。

1位の「結婚」は20代がピーク(約48%)で、30代も多いが後の年代では選択率が高くない。全体として選択率が1位ではあるが、20代、30代での選択率の高さが全体の選択率に影響している。「親からの経済的自立」は10代で最も高く、20代でやや下がり、30代以降はほとんど選択されない。「郷里を離れる」も10代が最も高く、以後の選択率はわずかになる。「子どもの誕生」は、30代をピークとした山型になっている。「子どもの受験」は40代が最も高く、50代の選択率も10%弱見られる。「家・土地を購入」は40代がピークであるが30代でも見られる。「親との死別」は年代を追って選択率が増し、40代、50代と大きくなる。「配偶者と出会う」という項目は10代、20代と多くなり、30代以降は減少する。



図表3-12 上位8位イベントの年代別選択率の違い

③男女差

「家庭」に関する項目について、男女別に集計した結果を図表3-13に示す。

10代では、上位2位までの選択率が男女とも高かった。男性は、1位から順に、郷里を離れる(35.12%)、親からの経済的自立(26.89%)となった。この2つで62.01%を占める。女性も上位2位までの項目は同じだった。1位は「親からの経済的自立」で25.68%、2位は「郷里を離れる」25.48%となり、若干の差はあるもののほぼ同じ割合で選択されていた。その他の10位までの項目に関して、男女で大きな違いはないが、2項目だけ違っていた。男性では9位と10位に、「自分の病気・けが」、「自分の入院」が入り、女性では、7位に「結婚」、10位に「親の病気・けが」が入っている。

20代では、男女とも1位に「結婚」が入っている。男性では45.89%、女性では54.44%と半数程度を占める。男性では、2位が「親からの経済的独立」(17.30%)、3位が「配偶者と出会う」(13.32%)となる。「子どもの誕生」が3.79%で4位に入っている。女性では2位に「子どもの誕生」(14.09%)が入る。また、「配偶者と出会う」(7.14%)、「親からの経済的独立」(6.37%)も高い。男女ともに上位10項目はほぼ共通の項目が選択されているが、男性で「転居」が9位(1.17%)、「自分の病気・けが」が10位に入っている点、女性で「離婚」が6位(1.74%)、「子どもの入学」が9位(1.16%)に入っている点が

異なる。

30代では、男女ともに「子どもの誕生」が1位となる。男性で26.57%、女性で21.04%であった。「子どもの誕生」は女性の場合、20代での選択率が男性よりも高いので、30代での選択数が相対的に減っている。男性では2位に「結婚」23.56%が入る。女性でも「結婚」はあるが5位で4.44%と男性に比べて少ない。3位は男女共通に、「家・土地を購入」となる。それぞれ11%程度である。30代で異なるのは、男性で「配偶者と出会う」が5位(4.57%)に入っているのに対し、女性では「子どもの卒業」(3.28%)が入っている点である。

40代では、男女ともに1位は「子どもの受験」で、ほぼ18%程度となった。男性の場合、2位は「家・土地を購入」で15.80%、女性の2位は「子どもの就職」(10.62%)であった。3位以下では選択項目に少し男女でばらつきが見られる。共通でない項目として、男性では「親との死別」(9.07%)、「子どもの入学」(7.31%)、「ローンを組む」(3.92%)、「子どもの誕生」(3.79%)、「転居」(3.46%)がある。一方、女性では、「子どもの結婚」(5.98%)、「子どもが家を出る」(3.86%)、「改築・リフォーム」(3.47%)がある。

50代では、男性の場合、1位から3位まで順に「子どもの就職」(13.64%)、「親との死別」(11.49%)、「子どもの受験」(10.77%)となった。女性の場合は、「子どもの結婚」(10.81%)、「孫の誕生」(10.62%)、「子どもの就職」(9.46%)となる。男女で選択が異なっていた項目としては、男性の場合、3位の「子どもの受験」、10位の「家・土地を購入」(3.33%)であった。女性の場合は、「改築・リフォーム」(4.25%)、「家族の入院」(3.67%)であった。なお、40代にはなかった「自分の病気・けが」という項目が男女とも共通に選択されている。

以上、各年代で男女の回答結果を概観したが、「家庭」に関するイベントでは、全体として「家庭」に関する項目は、「仕事」に関する項目よりも選択される項目に関して、男女間での違いは少なく、ほぼ共通の項目が選択されていた。ただ、女性の結婚年齢が男性に比べて早いということが影響して、選択の順位が少しずれている傾向が見られた。

図表3-13 男女別に見た各年代の「家庭」に関するイベントの選択率

| | 男性 | | 女性 | |
|-----|----|-------------------|-------------------|-----|
| | | (%) | | (%) |
| 10代 | 1 | 郷里を離れる (35.12) | 親からの経済的自立 (25.68) | |
| | 2 | 親からの経済的自立 (26.89) | 郷里を離れる (25.48) | |
| | 3 | 親と同居 (6.33) | 配偶者と出会う (11.78) | |
| | 4 | 配偶者と出会う (5.22) | 親と同居 (4.83) | |
| | 5 | その他 (3.52) | その他 (4.83) | |
| | 6 | 転居 (2.48) | 親との死別 (2.12) | |
| | 7 | 親との死別 (2.28) | 結婚 (1.74) | |
| | 8 | 親の入院 (1.37) | 親の入院 (1.35) | |
| | 9 | 自分の病気・けが (1.17) | 転居 (0.77) | |
| | 10 | 自分の入院 (0.91) | 親の病気・けが (0.77) | |
| 20代 | 1 | 結婚 (45.89) | 結婚 (54.44) | |
| | 2 | 親からの経済的自立 (17.30) | 子どもの誕生 (14.09) | |
| | 3 | 配偶者と出会う (13.32) | 配偶者と出会う (7.14) | |
| | 4 | 子どもの誕生 (3.79) | 親からの経済的自立 (6.37) | |
| | 5 | 郷里を離れる (3.20) | 郷里を離れる (2.32) | |
| | 6 | 家・土地を購入 (1.96) | 離婚 (1.74) | |
| | 7 | 親との死別 (1.83) | 親との死別 (1.54) | |
| | 8 | 郷里に帰る (1.24) | 郷里に帰る (1.35) | |
| | 9 | 転居 (1.17) | 子どもの入学 (1.16) | |
| | 10 | 自分の病気・けが (0.98) | 家・土地を購入 (1.16) | |
| 30代 | 1 | 子どもの誕生 (26.57) | 子どもの誕生 (21.04) | |
| | 2 | 結婚 (23.56) | 子どもの入学 (17.76) | |
| | 3 | 家・土地を購入 (11.16) | 家・土地を購入 (11.39) | |
| | 4 | 子どもの入学 (9.27) | 子どもの受験 (9.07) | |
| | 5 | 配偶者と出会う (4.57) | 結婚 (4.44) | |
| | 6 | ローンを組む (3.07) | 離婚 (4.44) | |
| | 7 | 離婚 (2.42) | 親との死別 (3.47) | |
| | 8 | 親との死別 (2.35) | 子どもの卒業 (3.28) | |
| | 9 | 子どもの受験 (2.28) | ローンを組む (3.28) | |
| | 10 | 転居 (2.15) | 転居 (2.12) | |
| 40代 | 1 | 子どもの受験 (18.08) | 子どもの受験 (18.15) | |
| | 2 | 家・土地を購入 (15.80) | 子どもの就職 (10.62) | |
| | 3 | 親との死別 (9.07) | 家・土地を購入 (8.49) | |
| | 4 | 子どもの入学 (7.31) | 親との死別 (8.30) | |
| | 5 | ローン・借金返済 (4.63) | 子どもの結婚 (5.98) | |
| | 6 | 子どもの就職 (4.57) | 子どもが家を出る (3.86) | |
| | 7 | ローンを組む (3.92) | 子どもの入学 (3.67) | |
| | 8 | 子どもの誕生 (3.79) | ローン・借金返済 (3.47) | |
| | 9 | 子どもの卒業 (3.79) | 改築・リフォーム (3.47) | |
| | 10 | 転居 (3.46) | 子どもの卒業 (3.09) | |
| 50代 | 1 | 子どもの就職 (13.64) | 子どもの結婚 (10.81) | |
| | 2 | 親との死別 (11.49) | 孫の誕生 (10.62) | |
| | 3 | 子どもの受験 (10.77) | 子どもの就職 (9.46) | |
| | 4 | ローン・借金返済 (7.51) | 親との死別 (8.30) | |
| | 5 | 子どもの結婚 (5.42) | 子どもが家を出る (5.98) | |
| | 6 | 子どもが家を出る (4.37) | ローン・借金返済 (5.21) | |
| | 7 | 自分の病気・けが (4.18) | 改築・リフォーム (4.25) | |
| | 8 | 孫の誕生 (3.98) | 自分の病気・けが (4.05) | |
| | 9 | 親の病気・けが (3.92) | 親の病気・けが (3.86) | |
| | 10 | 家・土地を購入 (3.33) | 家族の入院 (3.67) | |

(3) 典型的なキャリアパターン

各年代別のイベントをみた結果では、仕事も家庭も10代、20代では多くの人が特定のイベントを選択するが、年代が上になるにつれて、選択されるイベントが多様になることがわかった。そこで次に、各年代で選択された項目に基づいて、10代から50代までの典型的なキャリアパターンとしてどのようなものが考えられるかを仕事と家庭ごとに男女別に整理してみた(図表3-14~図表3-17)。

例えば、仕事に関するイベントで、男性の場合、10代で選択されている項目は、「大学・大学院への進学」が40.73%、「正社員として就職」が22.78%である。この2項目だけで、約63%を占める。そこで、次に、10代で「大学・大学院への進学」を選んだ人が20代でどんな項目を選んでいるか、10代で「正社員として就職」を選んだ人が20代でどんな項目を選んでいるかなどを整理し、50代までの主なパターン別に人数を数えた。前述の通り、年代が上になるにつれて、特定の項目に選択者が集中しなくなるため、ばらつきは大きくなるが、選択率の高い項目に注目して項目を整理した。なお、各年代で選択率が多かったイベントをとりあげてパターン分けをしているため、選択率の低いイベントを選んだ人はパターンの集計に含まれていない。

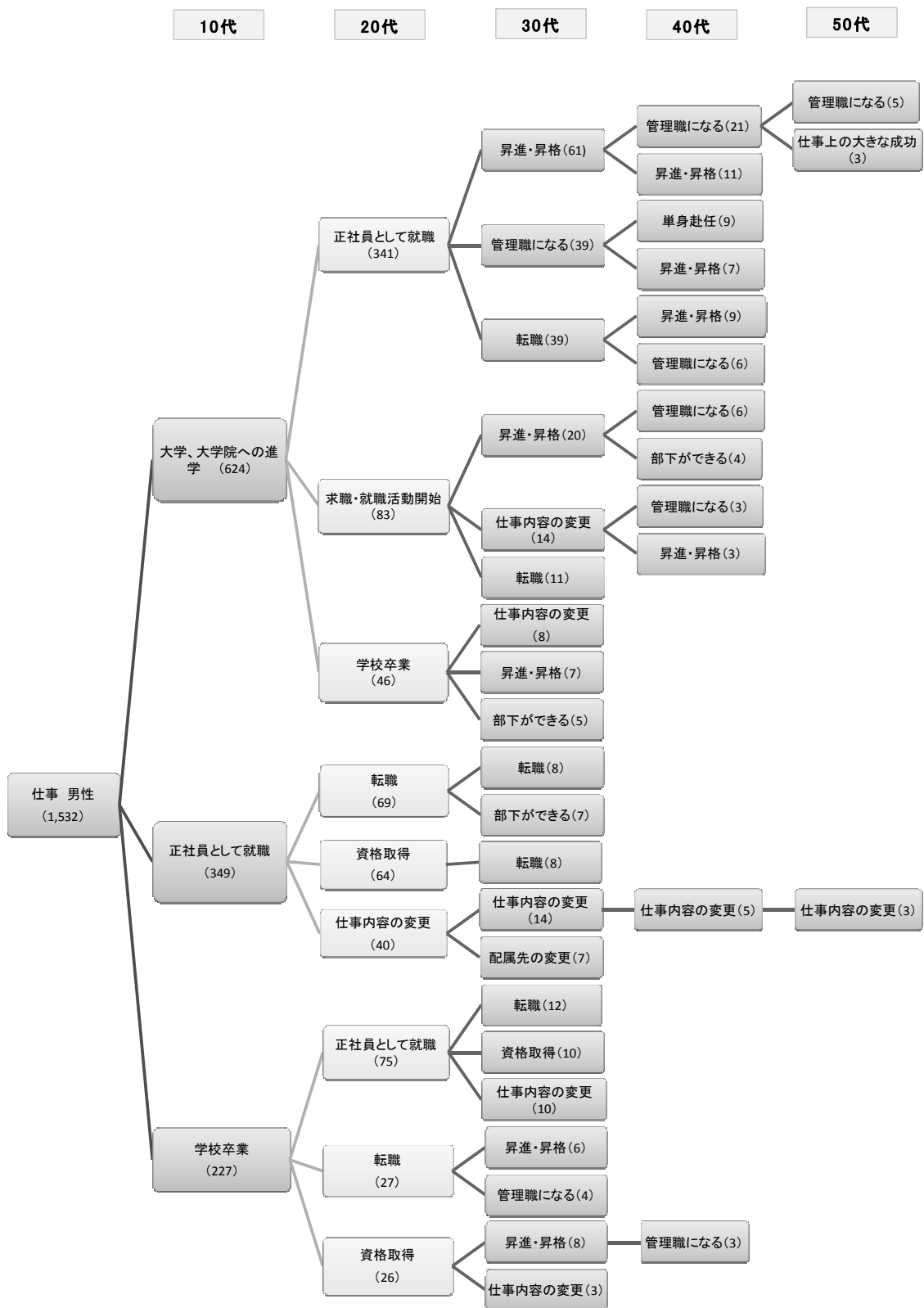
① 仕事に関するイベントにおける男性のパターン

男性の場合、10代では「大学、大学院への進学」、「正社員として就職」、「学校卒業」というイベントが8割近くを占める(図表3-14)。そこから出発して各年代で選択率の高かったイベントは図表3-14に示した通りである。

10代で「大学、大学院への進学」というイベントを選んだ者は、20代で「正社員として就職」、「求職・就職活動開始」、「学校卒業」を主に選び、その後、30代、40代、50代と、「昇進・昇格」、「管理職になる」、「部下ができる」というパターンをとる例が多く見られる。

10代で「正社員として就職」を選んだ者は、20代で「転職」、「資格取得」、「仕事内容の変更」をいうイベントを多く選ぶ。10代で正社員として就職したものの、20代で転職するというパターンや、20代で資格をとって30代で転職するというパターンなどもみられる。40代以降は、選択された項目のイベントが細分化されるため、特にイベントは記載していない。

10代で「学校卒業」を選んだ者は、20代で「正社員として就職」、「転職」、「資格取得」を主に選択した。このうち、20代で「正社員として就職」を選んだ者は、30代で「転職」、「資格取得」、「仕事内容の変更」という項目を選んでいる。20代で「転職」あるいは「資格取得」を選んだ者は、30代で「昇進・昇格」、「管理職になる」、「仕事内容の変更」などを選んでいる。



図表3-14 仕事に関するイベントでみたキャリア・パターン(男性)

②仕事に関するイベントにおける女性のパターン

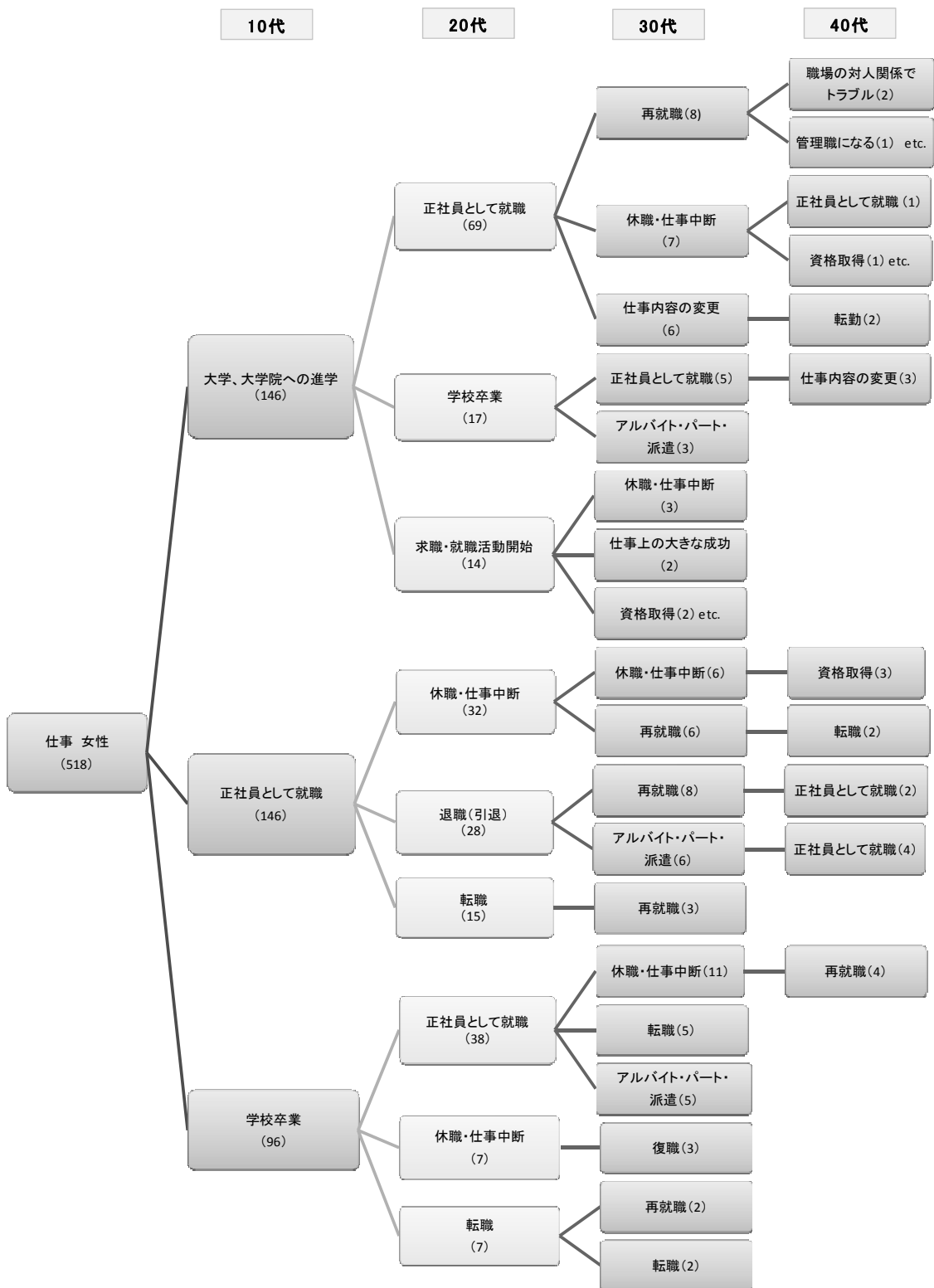
男性と同様に、仕事に関する女性のキャリア・パターンを作成した(図表3-15)。女性の場合は、最初的人数が男性よりも少ない。そのため、50代になると、パターンが細分化され、どの項目もセルの人数が1~2名程度になってしまうので、40代までの図となっている。

10代では、男性と同じく、「大学、大学院への進学(146名)」、「正社員として就職(146名)」、「学校卒業(96名)」というイベントが多く選択されている。この3項目で、全体の約75%を占める。10代で「大学、大学院への進学」を選んだ人は、20代で、「正社員として就職」、「学校卒業」、「求職・就職活動開始」に分かれる。これは男性のパターンと同じである。続いて30代になると、男性とパターンが大きく異なり、選択項目が細分化される。20代で「正社員として就職」を選んだ場合には、30代で主に「再就職」、「休職・仕事中断」、「仕事内容の変更」に分かれる。20代で「学校卒業」を選んだ人は、30代で「正社員として就職」、「アルバイト・パート・派遣」を選択している。20代で「求職・就職活動開始」を選んだ人は、30代で「休職・仕事中断」、「仕事上の大きな成功」、「資格取得」を選んでいる。ただし、30代では、かなり細分化されており、各パターンの人数も少ない。

10代で、「正社員として就職」を選んだ場合には、20代で、「休職・仕事中断」、「退職(引退)」、「転職」に分かれる。10代で「大学、大学院への進学」を選んだ人と20代での選択項目が違っていることがわかる。30代になると、どの項目を選んだ人も「再就職」というパターンを取ることが多く、いったん退職した後に、上の年代になって再び仕事に就くというパターンが見られる。

10代で、「学校卒業」を選んだ人は20代で、「正社員として就職」、「休職・仕事中断」、「転職」に分かれる。このパターンでは、20代と30代で「転職」を選択している人が多く見られる点が特徴である。

なお、全体を通して見て、女性の場合は、30代、40代にかけて、男性に比べて「管理職になる」や「昇進・昇格」という項目が少なく、「再就職」、「休職・仕事中断」、「アルバイト・パート・派遣」というような項目が選択されていることがわかる。



図表3-15 仕事に関するイベントでみたキャリア・パターン(女性)

③家庭に関するイベントにおける男性のパターン

家庭生活に関するイベントについて、仕事と同様に選択率が高かった項目を中心にキャリア・パターンを作成した。男性に関してまとめたものが図表3-16である。10代では、「郷里を離れる」、「親からの経済的自立」、「親と同居」の3つのパターンで、全体の68%を占める。その後、それぞれのパターン別に20代で選択された項目をみたところ、どのパターンでも「結婚」、「親からの経済的自立」、「配偶者と出会う」が多く選択されたイベントとなった。また、30代においては、「子供の誕生」、「子供の入学」など、子供に関するイベントが多く見られる他、「家・土地を購入」という項目も多く見られた。この傾向は20代での選択イベントに関わらず共通であった。さらに40代では、「子供の受験」が多く見られ、この他には、「家・土地を購入」や「ローン・借金返済」という項目が共通に多く見られている。50代では、「子供の就職」の他、「親との死別」などが多い。

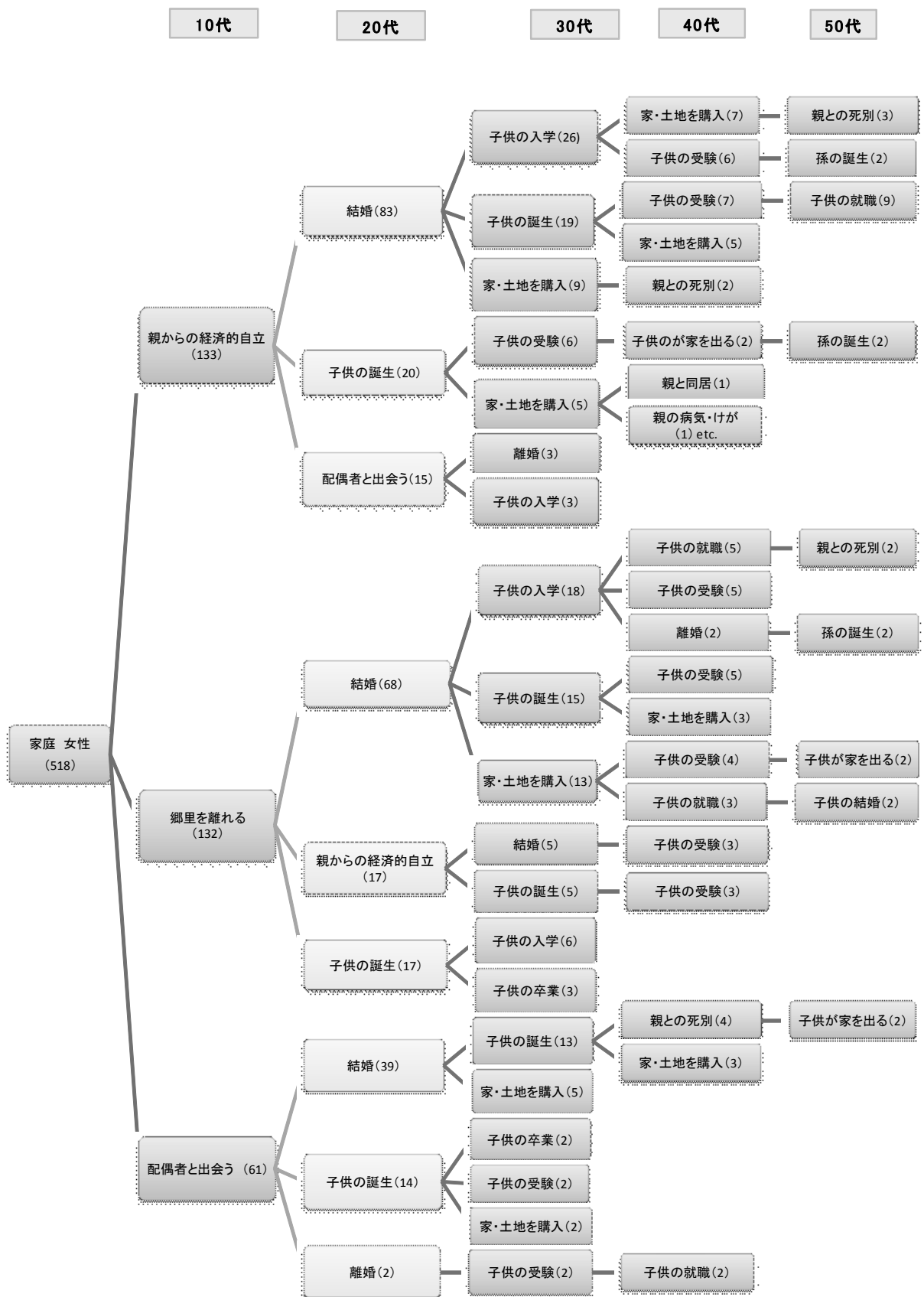
全体として、仕事に関する項目に比べて、各年代で選択される項目は共通のものが多く、キャリア・パターンでみると、それが選択される年代が若干早いか、遅いかの違いであるようだ。

④家庭に関するイベントにおける女性のパターン

同様に、女性に関しても、家庭に関するイベントに関してキャリア・パターンに基づいて作図した結果が図表3-17である。

全体として男性と同様の項目が選ばれており、10代では、「親からの経済的自立」、「郷里を離れる」、「配偶者と出会う」の3つの選択率が高い。この3つで、全体の約63%を占める。その後、20代では、どのグループでも「結婚」、「子供の誕生」という項目が選択されている。この他の20代の項目としては、10代で、「親からの経済的自立」を選んだ場合には、上記2項目の他に、「配偶者と出会う」を20代で選んでいる。10代で、「郷里を離れる」を選んでいる場合には、「親からの経済的自立」を20代で選んでいる。また、10代で、「配偶者と出会う」を選んでいる場合には、「離婚」が含まれる。

その後、30代、40代に選択されている項目は、だいたい男性の場合と同様で、30代では、「子供の誕生」、「子供の入学」、「家・土地を購入」という項目が共通に多くなっている。50代では、女性の場合、選択されているイベントに「孫の誕生」、「子供が家を出る」という項目が見られる。男性の50代にはこれらの項目は見られない。女性の結婚年齢が男性よりも早い場合、同じ年代で比較した場合には、子供の年齢が高くなっていることが選択されているイベントの内容にも示されているようだ。



図表3-17 家庭に関するイベントでみたキャリア・パターン(女性)

⑤キャリア・パターンについてのまとめ

以上、仕事と家庭に関して選択されたイベントに基づいて、男女別に主なキャリア・パターンをまとめた。ここでは、10代から50代までの一般的ないくつかのパターンを整理することを目的としたため、選択率の高かった項目に絞って、グループを作っていた。前項で見たとおり、10代、20代よりも、30代以降で選ばれるイベントが多様化するため、年代が高くなる毎に、そのパターンに分類される人数も少なくなる。そこで、一般的なパターンといっても一つのパターンにはそれほど多くの人数があてはまらない。

ただ、このような意味で限られたパターンではあるが、仕事と家庭それぞれについて、男女別に整理した結果を見てみると、いくつかの特徴は把握できたと思う。第1点は、仕事に関するキャリア・パターンの方が、家庭に関するものよりも、パターンが分かれているということだ。特に男性においてその違いが大きく、10代で選択された項目以降、キャリア・パターンが少し変わることから、学歴がキャリア・パターンに及ぼす影響も示唆されているようだ。また、第2点として、仕事に関しては、10代、20代では男女差がないのに、その後の年代で、キャリア・パターンが大きく異なっていることも示された。一般的に予測できる通り、男性は仕事を継続して続ける者が多く、年齢が上になるとともに管理職になり、部下をもつようなキャリアがみられるのに対して、女性では20代で結婚し、30代で仕事を辞めたり、休職し、年代が上がってから再就職したり、働き方を変えるというパターンが多い。イベントの選択からこのようなキャリア・パターンが確認されたことはとても興味深い。第3点は、家庭生活に関しては、仕事に関する違いほど、男女差が見られなかったということだ。男女とも、学校を卒業して、親から独立した後、結婚し、男性は30代、女性は20代くらいで子供を持つ。その後は、子供に関する受験や、家の購入というようなイベントがあり、最後は、子供の独立や自分の親との死別等のイベントが多くなるようだ。男女での違いは、イベントが表れる年代のずれで、結婚や子供に関するイベントは、男性より女性の方が若干早く選択されている。50代では、女性の場合、「孫の誕生」というイベントもあるように、女性の方が子供に関するイベントが早い時期から始まるので、子供から手が離れるのも男性より若い時期になる。それで、女性では40代、50代の子育て後に仕事に復帰というパターンも多くなるのだろう。

今回は、各年代で選択されたイベントに注目してキャリア・パターンを分けたが、上述のように、男女に関する一般的なライフイベントとして想定される流れが、このデータでも確認できたといえよう。ライフイベントで確認できたキャリア・パターンの大きな特徴は、この調査の他の変数（最終学歴、年収、配偶者や子供の有無、職歴等）と関連づけることによって、より詳しく検証できると考えられるが、その点については、今後の課題としたい。

4. 「これまでの職業や経歴に関するライフイベント」と「これからの職業や経歴に関する考え方」との関連

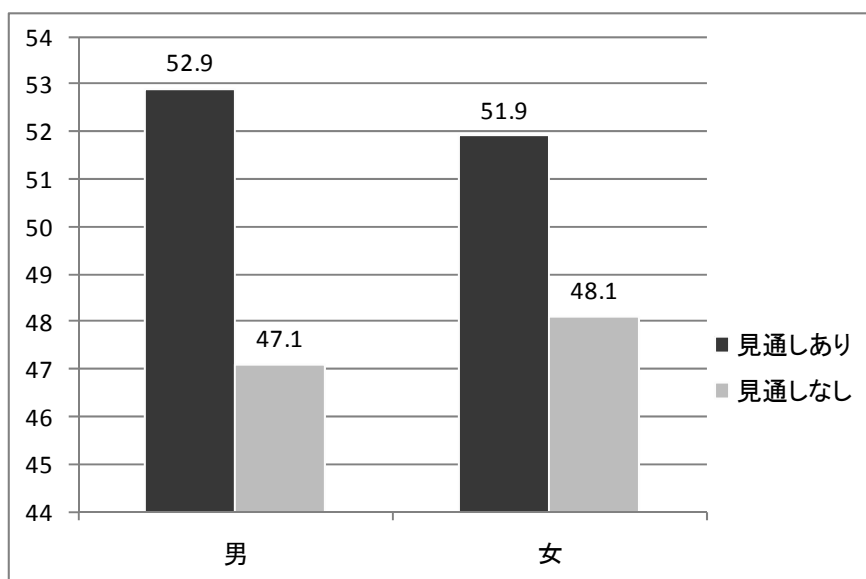
本章ではここまでのところ、「これまでの職業や経歴に関する問い」に関する回答について分析した結果をまとめたが、過去の仕事上の出来事やそれまでの経歴を本人がどのように見ているかは、将来の仕事や経歴に関する考え方にも影響を及ぼすことが考えられる。そこで、仕事や家庭生活に関してどのようなイベントが選択されたかということと、調査票の設問「これからの職業や経歴に関する考え方」として尋ねた質問への回答結果との関連を検討した。

分析にあたっては、この設問で扱われている項目のうち、問 33「今後の職業生活についての見通し」、問 34「職業生活を引退した後についての見通し」、問 35「働きたい年齢」、問 36「老後についての不安の程度」に関する 4 問を取り上げた。問 33、問 34 は、これからの見通しの程度について 4 段階評定で回答させる。問 35 は働きたい年齢階級に関する選択肢を 8 つ用意し、その中から一つを選択させる。問 36 は、老後についての不安の程度を 5 段階で評価させるものである。初めに個々の項目について男女別に回答を集計した結果を示し、その後、これまでのライフイベントとの関連について分析する。

(1) 「これからの職業や経歴に関する考え方」の回答結果

① 今後の職業生活についての見通し

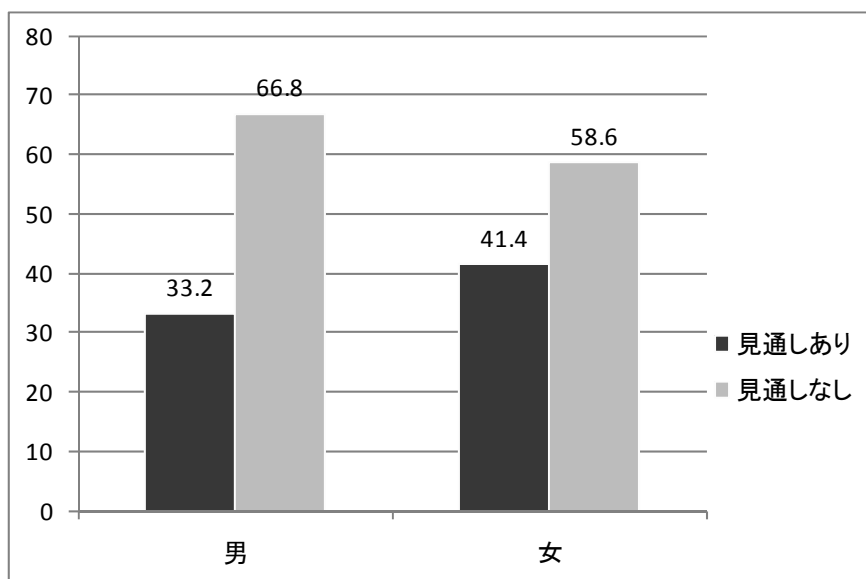
質問に対する回答としては、「かなり見通しを持っている」、「ある程度見通しをもっている」、「あまり見通しを持っていない」、「まったく見通しをもっていない」の 4 段階での評価を用意したが、ここでは、「見通しあり」（「かなり持っている」と「ある程度持っている」を合わせた回答）と「見通しなし」（「あまりを持っていない」「まったく持ってない」を合わせた回答）の 2 群に分けて、男女別に集計した（図表 3-18）。選択の割合は男性の「見通しあり」が 52.9%、「なし」が 47.1%、女性の「見通しあり」が 51.9%、「なし」が 48.1% となって、男女とも「見通しあり」が「なし」に比べて割合としては多かったがそれほど大きな差ではない。男女差に関しても、 χ^2 検定の結果有意ではなく、回答の傾向に大きな違いはないことがわかった。



図表3-18 今後の職業生活についての見通しの有無(%)

②職業生活を引退した後の見通し

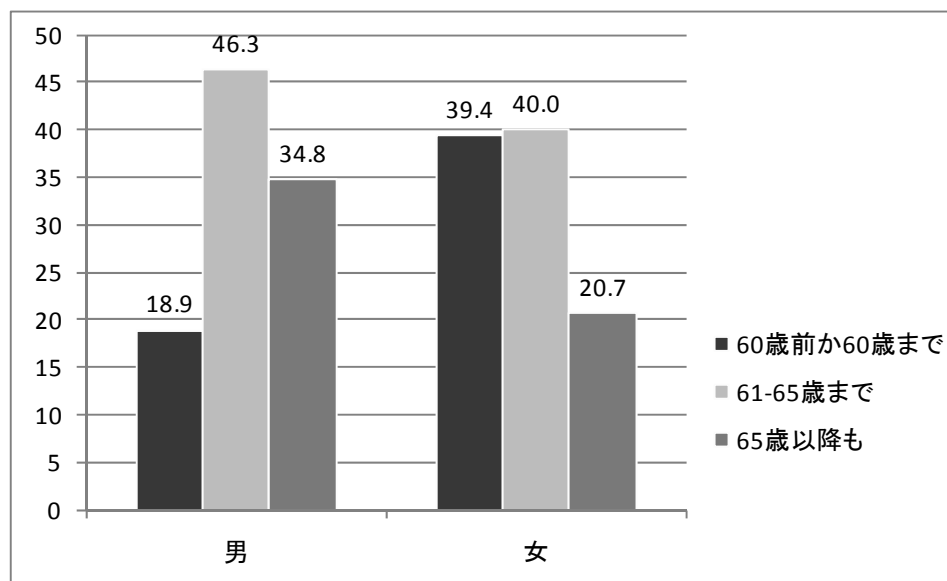
この質問に対しても上記と同様に、「見通しあり」と「見通しなし」の2群に分けて、男女別に集計した(図表3-19)。男性の場合、「見通しあり」が33.2%、「なし」が66.8%、女性の場合、「見通しあり」が41.4%、「なし」が58.6%となった。前問の「職業生活」についての見通しと比べて、「引退後」となると「見通しあり」が減っており、「見通しなし」の方が増えている。特に男性で差が大きくなっており、 χ^2 検定の結果、男女の傾向に差が見られた($\chi^2=11.23, p<.001$)。



図表3-19 引退後の見通しの有無(%)

③働き続けたい年齢

この設問では、「何歳まで働き続けたいですか」という質問に対し、「60歳前に引退したい」、「60歳まで」、「61-65歳頃まで」、「66-70歳頃まで」、「71-75歳頃まで」、「76-80歳頃まで」、「81歳以上」、「生涯現役で働き続けたい」という8つの回答が用意されている。個々の回答についての選択率をみたところ、71-81歳以上に関しては、選択者数が少ないので、「60歳前に引退したい」と「60歳まで」を第1の分類、「61-65歳頃まで」を第2の分類、「66歳以降も」を第3の分類として集計した(図表3-20)。男性の場合、第1のグループは18.9%、第2のグループは46.3%、第3のグループは34.8%となり、第2のグループが半数近くを占めて一番多かった。第3のグループが2位で、一番選択率が低かったのは第1のグループとなった。女性の場合、第1のグループは39.4%、第2のグループは40.0%、第3のグループは20.7%となり、第1と第2のグループがほぼ同程度で、第3のグループの選択率が一番低かった。選択の傾向に性差が見られ、男性の方が、女性よりも高い年齢まで働き続けたいという希望が多いようであった。 χ^2 検定では男性と女性で選択率に有意差が見られた($\chi^2=95.43, p<.001$)。

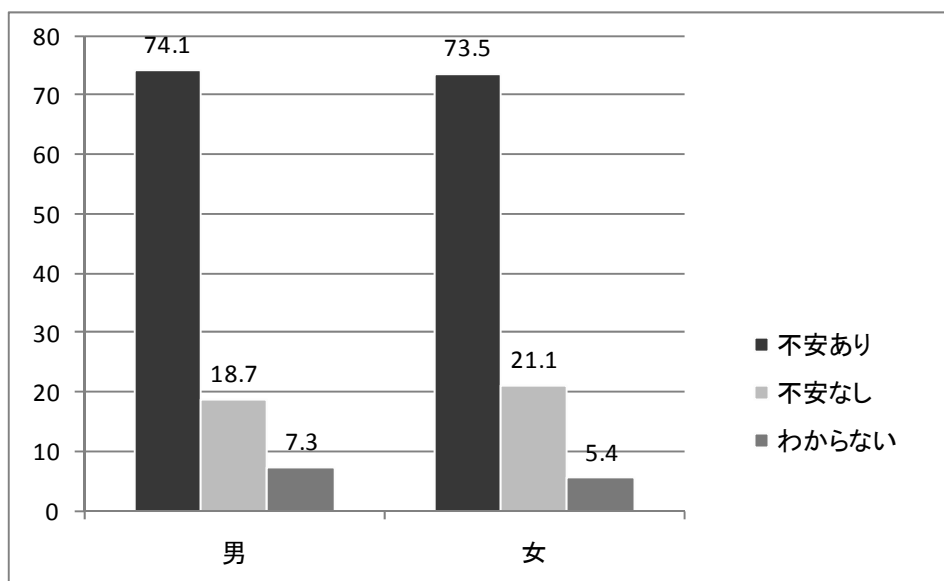


図表3-20 働き続けたい年齢(%)

④老後についての不安の程度

この設問では、老後についての不安として「大いに不安である」、「やや不安である」、「あまり不安でない」、「まったく不安でない」、「わからない」という5つの回答が用意されている。このうち、少しでも不安を感じている「大いに不安」と「やや不安」の選択者を「不安あり」グループ、不安については否定的な回答をしている「あまり不安で

ない」、「まったく不安でない」をあわせた選択者を「不安なし」グループとした。「わからない」という回答を選んだグループはそのままとして、3つのグループでの選択率を男女別に算出した(図表3-21)。男性では、「不安あり」が74.1%、「不安なし」が18.7%、「わからない」が7.3%となった。女性では、「不安あり」が73.5%、「不安なし」が21.1%、「わからない」が5.4%となった。男女とも「不安あり」が7割以上を占め、老後に対して不安を感じている人が多いことが示されている。男女差は統計的に有意ではなかった。



図表3-21 老後の不安の有無(%)

(2)「これまでの職業や経歴に関する考え方」との関連

以上、職業生活や引退後の生活の見通しや老後への不安等に関する設問への回答の集計結果をみたが、これらの設問への回答と、10代から50代の家庭生活、仕事生活に関するイベントの選び方との関連について検討した。

①「これからの職業生活の見通し」と「引退後の生活への見通し」とのクロス集計によるグループ分け

問33の「これからの職業生活」や問34の「引退後の生活」への見通しをみると、男女とも「職業生活」に関しては「見通しあり」という回答が多いが、「引退後」に関しては「見通しなし」という回答の方が多い。そこで、職業生活と引退後の生活の設問に対するクロス集計を行った(図表3-22)。クロス集計の結果を見ると、男性も女性も職業生活でも引退後の生活でも「見通しなし」と回答している者の割合がそれぞれ最も多い。その次に多かったのは、男女とも、両方に関して「見通しあり」としている者とな

った。このことから、同じ人物の回答でみると、職業生活と引退後の生活の見通しは、ほぼ一致している場合が多いことが示されている¹。そこで、男女別に、「職業生活」と「引退後の生活」のどちらにも「見通しあり」と回答している者と、どちらにも「見通しなし」と回答している者を抽出し、それぞれのグループで、過去のイベントではどのような項目が選択されているのかを検討した。

図表3-22 職業生活と引退後の生活への見通しについてのクロス集計

| | | 引退後 | | 計 |
|------|-------|------------|-------------|------------|
| | | 見通しあり | 見通しなし | |
| 職業生活 | 男性 | | | |
| | 見通しあり | 408(26.95) | 391(25.83) | 799(52.77) |
| | 見通しなし | 92(6.08) | 623(41.15) | 715(47.23) |
| 計 | | 500(33.03) | 1014(66.97) | 1514(100) |

| | | 引退後 | | 計 |
|------|-------|------------|------------|------------|
| | | 見通しあり | 見通しなし | |
| 職業生活 | 女性 | | | |
| | 見通しあり | 156(30.71) | 107(21.06) | 263(51.77) |
| | 見通しなし | 54(10.63) | 191(37.60) | 245(48.23) |
| 計 | | 210(41.34) | 298(58.66) | 508(100) |

※数字は人数(人)、括弧内は割合(%)

② 「見通しあり」群と「見通しなし」群の「仕事に関するイベント」の比較(男性)

図表3-23は、男性のデータから「見通しあり」群と「見通しなし」群を作り、それぞれの群において、各年代の「仕事に関するイベント」のうち、どのようなイベントが多く選択されているかを集計した表である。

「見通しあり」群と「見通しなし」群で、各年代で選択されている項目をみると、重複している項目が多くなっており、各年代で重要だと感じられるイベントはある程度共通していることがわかる。ただ、30代～50代で、「見通しあり」群の方には、「仕事上の大きな成功」というイベントが含まれるのに対して、「見通しなし」群の方には含まれないこと、40代と50代で、「見通しなし」群の方には、「職場の対人関係でトラブル」という項目が含まれるが、「見通しあり」群の方には含まれないという違いが見られる。また、共通にあげられている項目であっても、選択率の点で「見通しあり」群と「見通しなし」群で、いくつかの項目に関して違いがある。

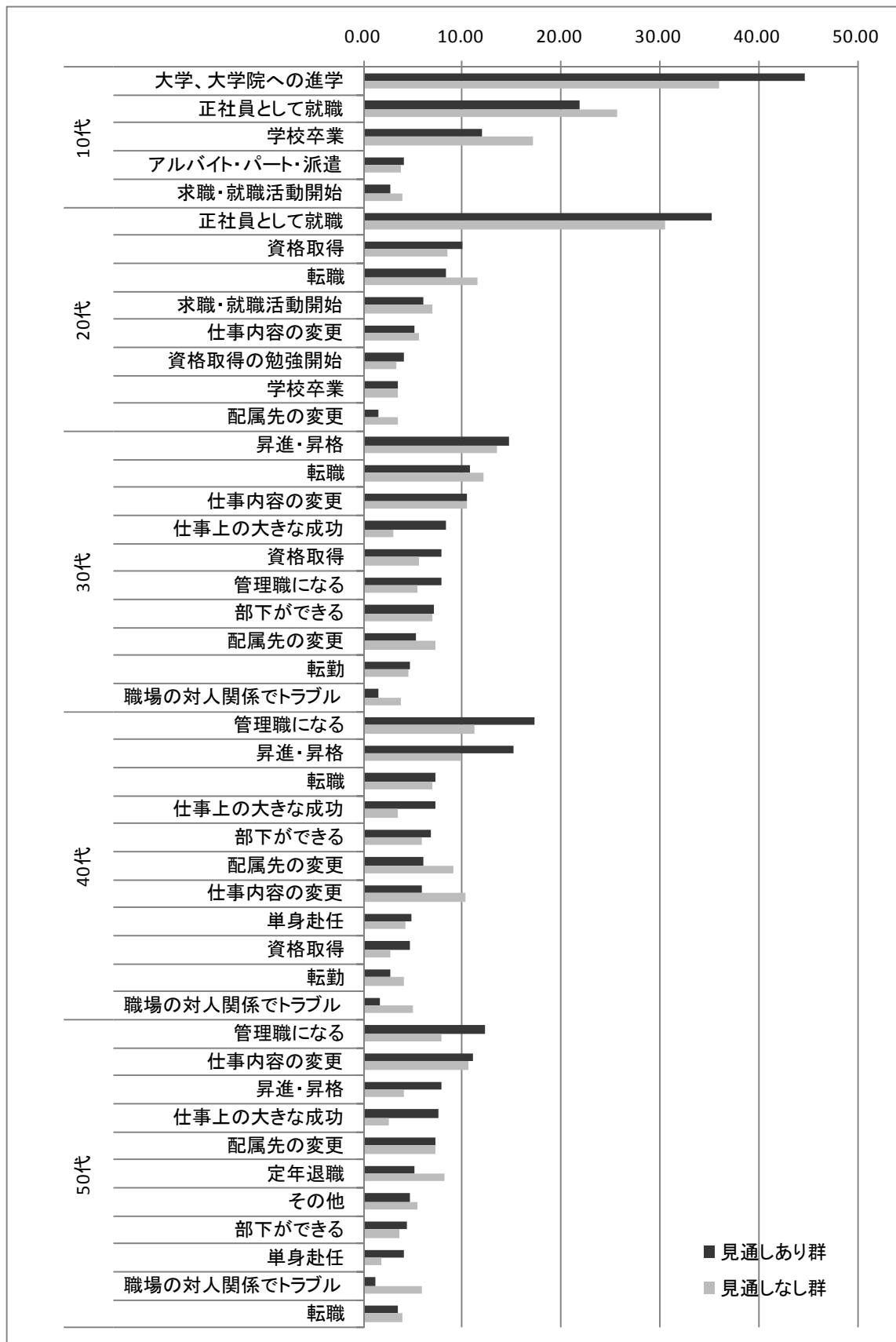
¹職業生活への見通しに対する4段階の回答を1点～4点とし、引退後の生活についての見通しを同じく1点～4点と得点化して、Pearsonの相関係数を求めたところ、 $r = .46 (p < .0001)$ で有意となった。

図表3-23 「見通しあり」群と「見通しなし」群の各年代の仕事イベント(男性)

| 「職業」「将来」について見通しあり(男性)の回答 | | | 「職業」「将来」について見通しなし(男性)の回答 | | |
|--------------------------|--------------|-------|--------------------------|--------------|-------|
| 年代 | イベント | % | 年代 | イベント | % |
| 10代 | 大学、大学院への進学 | 44.61 | 10代 | 大学、大学院への進学 | 35.96 |
| | 正社員として就職 | 21.81 | | 正社員として就職 | 25.68 |
| | 学校卒業 | 12.01 | | 学校卒業 | 17.17 |
| | アルバイト・パート・派遣 | 4.17 | | 求職・就職活動開始 | 4.01 |
| 20代 | 正社員として就職 | 35.29 | 20代 | 正社員として就職 | 30.50 |
| | 資格取得 | 10.05 | | 転職 | 11.56 |
| | 転職 | 8.33 | | 資格取得 | 8.51 |
| | 求職・就職活動開始 | 6.13 | | 求職・就職活動開始 | 7.06 |
| | 仕事内容の変更 | 5.15 | | 仕事内容の変更 | 5.62 |
| | 資格取得の勉強開始 | 4.17 | | 学校卒業 | 3.53 |
| | 学校卒業 | 3.43 | | 配属先の変更 | 3.53 |
| 30代 | 昇進・昇格 | 14.71 | 30代 | 昇進・昇格 | 13.48 |
| | 転職 | 10.78 | | 転職 | 12.20 |
| | 仕事内容の変更 | 10.54 | | 仕事内容の変更 | 10.43 |
| | 仕事上の大きな成功 | 8.33 | | 配属先の変更 | 7.22 |
| | 資格取得 | 7.84 | | 部下ができる | 7.06 |
| | 管理職になる | 7.84 | | 資格取得 | 5.62 |
| | 部下ができる | 7.11 | | 管理職になる | 5.46 |
| | 配属先の変更 | 5.39 | | 転勤 | 4.49 |
| | 転勤 | 4.66 | | 職場の対人関係でトラブル | 3.85 |
| 40代 | 管理職になる | 17.40 | 40代 | 管理職になる | 11.24 |
| | 昇進・昇格 | 15.20 | | 仕事内容の変更 | 10.27 |
| | 転職 | 7.35 | | 昇進・昇格 | 9.95 |
| | 仕事上の大きな成功 | 7.35 | | 配属先の変更 | 9.15 |
| | 部下ができる | 6.86 | | 転職 | 7.06 |
| | 配属先の変更 | 6.13 | | 部下ができる | 5.94 |
| | 仕事内容の変更 | 5.88 | | 職場の対人関係でトラブル | 4.98 |
| | 単身赴任 | 4.90 | | 単身赴任 | 4.33 |
| | 資格取得 | 4.66 | | 転勤 | 4.17 |
| 50代 | 管理職になる | 12.25 | 50代 | 仕事内容の変更 | 10.59 |
| | 仕事内容の変更 | 11.03 | | 定年退職 | 8.19 |
| | 昇進・昇格 | 7.84 | | 管理職になる | 7.87 |
| | 仕事上の大きな成功 | 7.60 | | 配属先の変更 | 7.22 |
| | 配属先の変更 | 7.35 | | 職場の対人関係でトラブル | 5.94 |
| | 定年退職 | 5.15 | | その他 | 5.46 |
| | その他 | 4.66 | | 昇進・昇格 | 4.17 |
| | 部下ができる | 4.41 | | 転職 | 4.01 |
| | 単身赴任 | 4.17 | | 部下ができる | 3.69 |

そこで、図表3-23にあげている「見通しあり」群と「見通しなし」群のイベントをすべて含むような一つのリストを作り、それぞれの群で、各イベントにどの程度の選択率があったのかを年代別にグラフにした(図表3-24)。

10代では、選択されているイベントの内容に関しては、共通の項目が多いが、選択率を見ると、「大学、大学院への進学」は「見通しあり」群の方が高く、「正社員として就職」と「学校卒業」は「見通しなし」群の方が高くなっている。



図表3-24 各年代におけるイベント選択率の群間比較(仕事項目:男性)

20代では、「正社員として就職」がどちらも多いが、「見通しあり」群の方が高い。10代の結果とあわせてみると、「見通しあり」群には、大卒以上の学歴を持つ者の割合が多く、「見通しなし」群には、それ以外の学歴の者が多く含まれていることが、イベントの選択率から示唆されているようだ。また、20代では、「見通しなし」群の転職の割合が「見通しあり」群よりも高めである。

30代では、「昇進・昇格」、「転職」、「仕事内容の変更」はどちらも上位であり違いはない。ただ、「見通しあり」群で、「仕事上の大きな成功」、「資格取得」、「管理職になる」が高い。他方、「見通しなし」群では、「配属先の変更」、「職場の対人関係でトラブル」というイベントが多く選択されている。

40代では、「管理職になる」、「昇進・昇格」はどちらも上位のイベントとしてあげられているが、選択率をみると、「見通しあり」群の方が、「見通しなし」群よりも高くなっている。また、「仕事上の大きな成功」も「見通しあり」群で高い。他方、「見通しなし」群のイベントとしては、「配属先の変更」、「仕事内容の変更」、「職場の対人関係でトラブル」が多くなっている。

50代では、「見通しあり」群では、「管理職になる」、「昇進・昇格」、「仕事上の大きな成功」が「見通しなし」群よりも高くなっている。他方で、「見通しなし」群では、「定年退職」、「職場の対人関係でトラブル」というイベントの選択率が、「見通しあり」群よりも高めとなっている。

以上、「見通しあり」群と「見通しなし」群の各年代のイベントをみると、「見通しあり」群は、30代の事から仕事上の大きな成功をおさめ、順調に昇進・昇格し、管理職になるというキャリアパターンを示す傾向が示されている。それに対し、「見通しなし」群では、昇進・昇格し、管理職になる者もいるが、その割合は「見通しあり」群よりも少なく、「仕事内容の変更」や「配属先の変更」があったり、「職場の対人関係でトラブル」という経験をもつことが多くなっているようだ。このように、過去の仕事上でのイベントは、現在の職業生活の見通しや将来への見通しに関連していることが示唆されている。

③ 「見通しあり」群と「見通しなし」群の「仕事に関するイベント」の比較(女性)

次に、女性のデータに関して、各年代別に選択されている仕事に関するイベントを「見通しあり」群と「見通しなし」群で比較した(図表3-25)。また、男性と同様に、図表3-25にあがっている「見通しあり」群と「見通しなし」群のイベントをすべて含む一つのリストを作り、各イベントの群別の選択率を年代別にグラフにした(図表3-26)。

10代では、選択率の高い項目は「見通しあり」群と「見通しなし」群で、ほぼ同じ項目がみられるが、「大学、大学院への進学」は「見通しあり」群の方が高い。これは男性

と同じ傾向である。その他の項目の選択率は、群によって大きな違いはなかった。

20代では、「正社員として就職」、「休職・仕事中断」、「退職（引退）」がどちらも選択率が高くなっていて、大きな違いはない。ただ、「資格取得」が「見通しあり」群で7.05%であるのに対して、「見通しなし」群では、2.09%と低くなっている。「再就職」の項目も、「見通しあり」群では、6.41%見られるのに対して、「見通しなし」群では、1.57%と少なくなっている。他方、「転職」は「見通しなし」群で8.38%であるのに対し、「見通しあり」群で5.13%と差がみられる。また、「求職・就職活動開始」の選択率についても、「見通しなし」群の方が多くなっている。

30代では、「再就職」、「休職・仕事中断」はイベント全体の中でどちらも選択率が多い項目であるが、「再就職」に関しては、「見通しなし」群の選択率が、「見通しあり」群よりもやや高めである。また、「見通しなし」群では、「アルバイト・パート・派遣」が「見通しあり」群よりも高い。他方、「見通しあり」群では、「正社員として就職」、「転職」が「見通しなし」群よりも高い。イベントの選択内容からみると、「見通しあり」群は、20代で休職や退職をしても、30代で復職するとき、正社員として就職するか転職するが、「見通しなし」群では、「アルバイト・パート・派遣」など非正規の仕事で復帰している傾向が示唆されている。

40代では、どちらも「正社員として就職」の選択率が一番高い。ただ、選択率は「見通しなし」群の方が高い。これは、30代とは異なる傾向である。選択率を比較すると「見通しなし」群では、2番目に「再就職」が高く(11.52%)、これは「見通しあり」群(7.05%)よりも高い。また、「見通しなし」群では、「アルバイト・パート・派遣」の割合が5.24%であるが、「見通しあり」群では、3.85%で、30代と同じ傾向が見られる。「職場の対人関係でトラブル」も高くなっている。他方、「見通しあり」群では、「管理職になる」というイベントが8.33%と高いのに対して、「見通しなし」群では1.05%と少ない。「転職」、「資格取得」、「昇進・昇格」も「見通しあり」群の方が、「見通しなし」群よりも高くなっている。なお、「見通しあり」群だけに「管理職になる」というイベントが見られ、「見通しなし」群だけに、「アルバイト・パート・派遣」と「職場の対人関係でトラブル」が含まれるという違いが生じた。

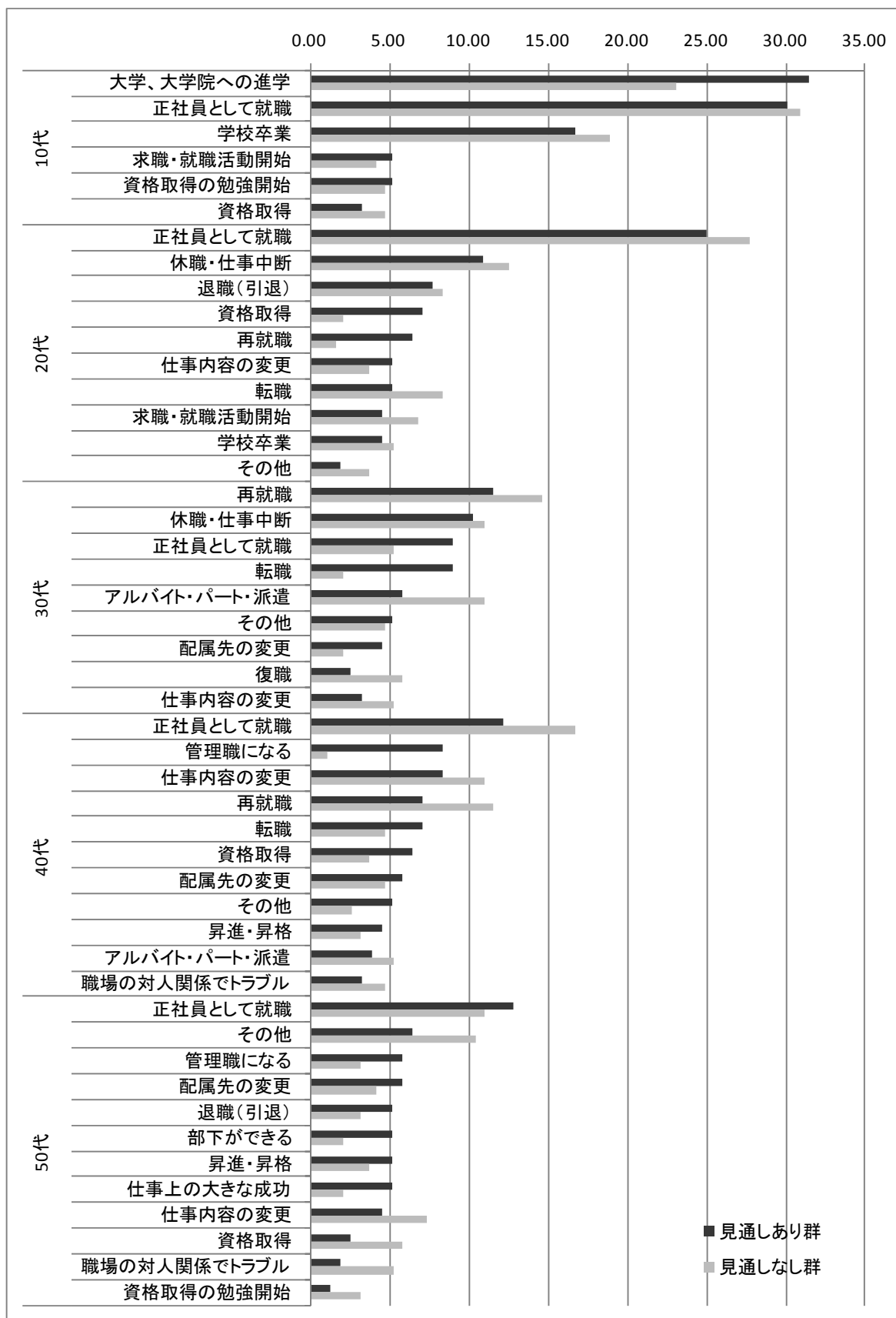
50代では、「見通しあり」群のみに見られたイベントとして、「退職（引退）」、「部下ができる」、「仕事上の大きな成功」があった(図表3-25)。他方、「見通しなし」群のみに見られたイベントでは、「資格取得」、「職場の対人関係でトラブル」、「資格取得の勉強開始」という項目があった。40代あるいは50代で、「見通しあり」群のみに「仕事上の大きな成功」が含まれ、「見通しなし」群のみに「職場の対人関係でトラブル」という項目が見られる点は、男性と同様であった。

項目の選択率を比較すると(図表3-26)、50代では、どちらも「正社員として就

職」が高くなっている。その他、上位の項目は、「見通しあり」群と「見通しなし」群でかなり異なっている。「見通しあり」群の選択率が「見通しなし」群よりも比較的高いのは、「管理職になる」、「配属先の変更」、「退職（引退）」、「昇進・昇格」、「部下ができる」、「仕事上の大きな成功」など、男性とほぼ同じようなイベントである。他方、「見通しなし」群が「見通しあり」群よりも高いのは、「その他」、「仕事内容の変更」、「資格取得」、「職場の対人関係でトラブル」、「資格取得の勉強開始」というイベントであった。男性の50代と比較した場合、女性は「正社員として就職」という項目の選択率が男性よりも高いが、その他のイベントでは、「見通しあり」群と「見通しなし」群のそれぞれについて、同じような選択傾向が見られたといえよう。

図表3-25 「見通しあり」群と「見通しなし」群の各年代の仕事イベント(女性)

| 「職業」「将来」について見通しあり(女性)の回答 | | | 「職業」「将来」について見通しなし(女性)の回答 | | |
|--------------------------|--------------|-------|--------------------------|--------------|-------|
| 年代 | イベント | % | 年代 | イベント | % |
| 10代 | 大学、大学院への進学 | 31.41 | 10代 | 正社員として就職 | 30.89 |
| | 正社員として就職 | 30.13 | | 大学、大学院への進学 | 23.04 |
| | 学校卒業 | 16.67 | | 学校卒業 | 18.85 |
| | 求職・就職活動開始 | 5.13 | | 資格取得 | 4.71 |
| | 資格取得の勉強開始 | 5.13 | | 資格取得の勉強開始 | 4.71 |
| | 資格取得 | 3.21 | | 求職・就職活動開始 | 4.19 |
| 20代 | 正社員として就職 | 25.00 | 20代 | 正社員として就職 | 27.75 |
| | 休職・仕事中断 | 10.90 | | 休職・仕事中断 | 12.57 |
| | 退職(引退) | 7.69 | | 転職 | 8.38 |
| | 資格取得 | 7.05 | | 退職(引退) | 8.38 |
| | 再就職 | 6.41 | | 求職・就職活動開始 | 6.81 |
| | 仕事内容の変更 | 5.13 | | 学校卒業 | 5.24 |
| | 転職 | 5.13 | | 仕事内容の変更 | 3.66 |
| | 求職・就職活動開始 | 4.49 | | その他 | 3.66 |
| | 学校卒業 | 4.49 | | 資格取得 | 2.09 |
| 30代 | 再就職 | 11.54 | 30代 | 再就職 | 14.66 |
| | 休職・仕事中断 | 10.26 | | 休職・仕事中断 | 10.99 |
| | 正社員として就職 | 8.97 | | アルバイト・パート・派遣 | 10.99 |
| | 転職 | 8.97 | | 復職 | 5.76 |
| | アルバイト・パート・派遣 | 5.77 | | 仕事内容の変更 | 5.24 |
| | その他 | 5.13 | | 正社員として就職 | 5.24 |
| | 配属先の変更 | 4.49 | | その他 | 4.71 |
| 40代 | 正社員として就職 | 12.18 | 40代 | 正社員として就職 | 16.75 |
| | 管理職になる | 8.33 | | 再就職 | 11.52 |
| | 仕事内容の変更 | 8.33 | | 仕事内容の変更 | 10.99 |
| | 再就職 | 7.05 | | アルバイト・パート・派遣 | 5.24 |
| | 転職 | 7.05 | | 転職 | 4.71 |
| | 資格取得 | 6.41 | | 職場の対人関係でトラブル | 4.71 |
| | 配属先の変更 | 5.77 | | 配属先の変更 | 4.71 |
| | その他 | 5.13 | | 資格取得 | 3.66 |
| | 昇進・昇格 | 4.49 | | 昇進・昇格 | 3.14 |
| 50代 | 正社員として就職 | 12.82 | 50代 | 正社員として就職 | 10.99 |
| | その他 | 6.41 | | その他 | 10.47 |
| | 管理職になる | 5.77 | | 仕事内容の変更 | 7.33 |
| | 配属先の変更 | 5.77 | | 資格取得 | 5.76 |
| | 退職(引退) | 5.13 | | 職場の対人関係でトラブル | 5.24 |
| | 部下ができる | 5.13 | | 配属先の変更 | 4.19 |
| | 昇進・昇格 | 5.13 | | 昇進・昇格 | 3.66 |
| | 仕事上の大きな成功 | 5.13 | | 資格取得の勉強開始 | 3.14 |
| | 仕事内容の変更 | 4.49 | | 管理職になる | 3.14 |



図表3-26 各年代におけるイベントの選択率の群間比較(仕事項目:女性)

④「見通しあり」群と「見通しなし」群の「家庭に関するイベント」の比較(男性)

ここまで、仕事に関するイベントについて、「見通しあり」群と「見通しなし」群の選択傾向をみてきたが、次に、各年代の家庭に関するイベントとして、どのような項目が多く選ばれているかを男性の各群のデータについて集計した(図表3-27)。また、仕事項目と同様に、「見通しあり」群と「見通しなし」群のそれぞれで選択されていた項目をすべて含むイベントのリストを作り、選択率を算出した結果をグラフにまとめた(図表3-28)。

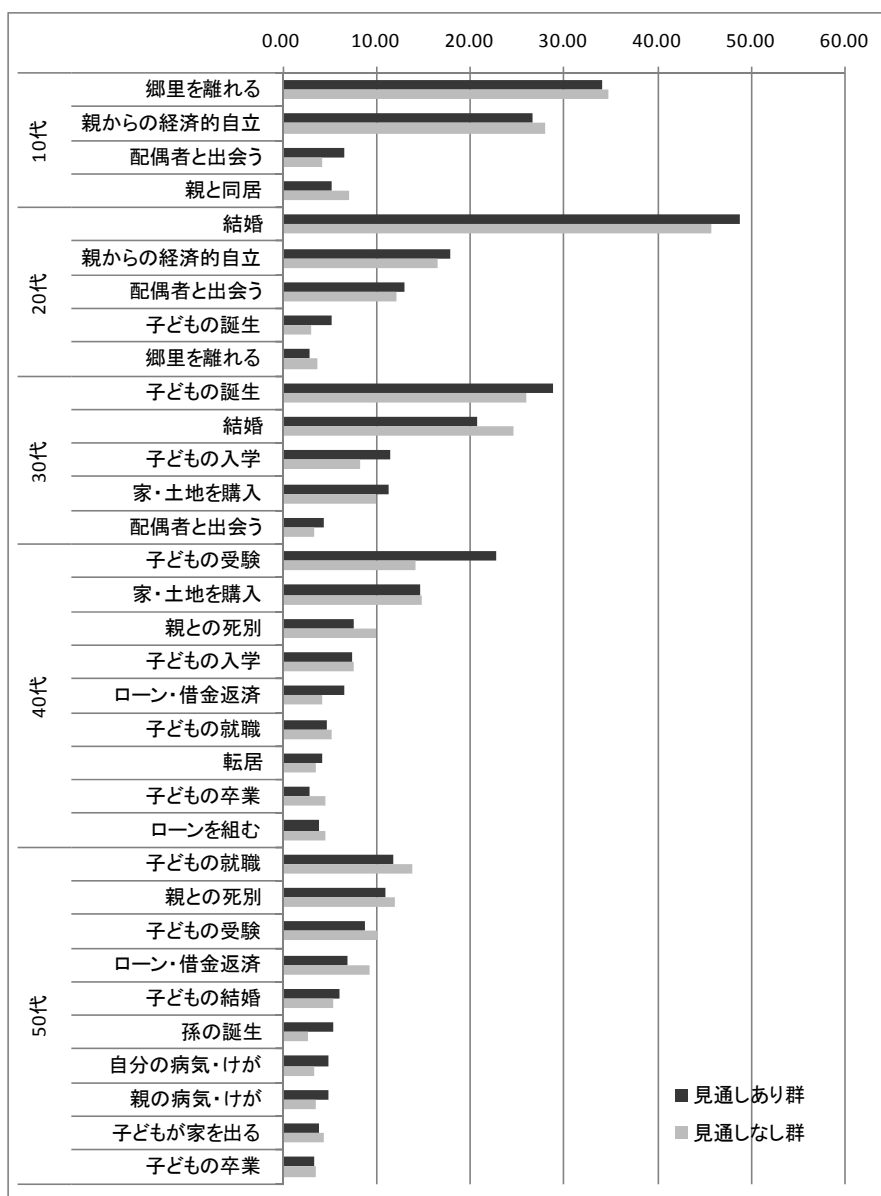
図表3-27 「見通しあり」群と「見通しなし」群の各年代の家庭生活イベント(男性)

| 年代 | イベント | % | 年代 | イベント | % |
|-----|-----------|-------|-----|-----------|-------|
| 10代 | 郷里を離れる | 34.07 | 10代 | 郷里を離れる | 34.67 |
| | 親からの経済的自立 | 26.72 | | 親からの経済的自立 | 27.93 |
| | 配偶者と出会う | 6.62 | | 親と同居 | 7.06 |
| | 親と同居 | 5.15 | | 配偶者と出会う | 4.17 |
| 20代 | 結婚 | 48.77 | 20代 | 結婚 | 45.75 |
| | 親からの経済的自立 | 17.89 | | 親からの経済的自立 | 16.53 |
| | 配偶者と出会う | 12.99 | | 配偶者と出会う | 12.20 |
| | 子どもの誕生 | 5.15 | | 郷里を離れる | 3.69 |
| 30代 | 子どもの誕生 | 28.92 | 30代 | 子どもの誕生 | 26.00 |
| | 結婚 | 20.83 | | 結婚 | 24.56 |
| | 子どもの入学 | 11.52 | | 家・土地を購入 | 9.95 |
| | 家・土地を購入 | 11.27 | | 子どもの入学 | 8.19 |
| | 配偶者と出会う | 4.41 | | 配偶者と出会う | 3.37 |
| 40代 | 子どもの受験 | 22.79 | 40代 | 家・土地を購入 | 14.77 |
| | 家・土地を購入 | 14.71 | | 子どもの受験 | 14.13 |
| | 親との死別 | 7.60 | | 親との死別 | 9.95 |
| | 子どもの入学 | 7.35 | | 子どもの入学 | 7.54 |
| | ローン・借金返済 | 6.62 | | 子どもの就職 | 5.30 |
| | 子どもの就職 | 4.66 | | 子どもの卒業 | 4.49 |
| | 転居 | 4.17 | | ローンを組む | 4.49 |
| 50代 | 子どもの就職 | 11.76 | 50代 | 子どもの就職 | 13.80 |
| | 親との死別 | 11.03 | | 親との死別 | 12.04 |
| | 子どもの受験 | 8.82 | | 子どもの受験 | 10.11 |
| | ローン・借金返済 | 6.86 | | ローン・借金返済 | 9.31 |
| | 子どもの結婚 | 6.13 | | 子どもの結婚 | 5.46 |
| | 孫の誕生 | 5.39 | | 子どもが家を出る | 4.33 |
| | 自分の病気・けが | 4.90 | | 子どもの卒業 | 3.53 |
| | 親の病気・けが | 4.90 | | 親の病気・けが | 3.53 |

20代までは、「見通しあり」群と「見通しなし」群で、ほぼ同じようなイベントが選択されており、選択率にも大きな違いはない。30代でも選択されているイベントは、ほぼ同じである。40代では、「見通しあり」群のみに「ローン・借金返済」と「転居」があり、他方、「見通しなし」群では、「子どもの卒業」と「ローンを組む」という項目が

含まれる。50代では、上位項目はほぼ同じであるが、「見通しあり」群では、「孫の誕生」、「自分の病気・けが」というイベントが選択されている。「見通しなし」群では、「子どもが家を出る」、「子どもの卒業」という項目が含まれる。若い年代では、選択される項目に群間での違いが少ないという点は、仕事に関するイベントでも、家庭に関するイベントでも同様であるといえよう。

イベントにおける選択率の違いをみると（図表3-28）、40代で、「子どもの受験」というイベントに関して、「見通しあり」群の方が（22.79%）、「見通しなし」群（14.13%）よりも、選択率が高い点が目立っているくらいであった。全体として、家庭に関するイベントに関しては、仕事に関するイベントほど、「見通しあり」群と「見通しなし」群との間で選択率に大きな違いはみられなかった。



図表3-28 各年代におけるイベント選択率の群間比較(家庭項目:男性)

⑤「見通しあり」群と「見通しなし」群の「家庭に関するイベント」の比較(女性)

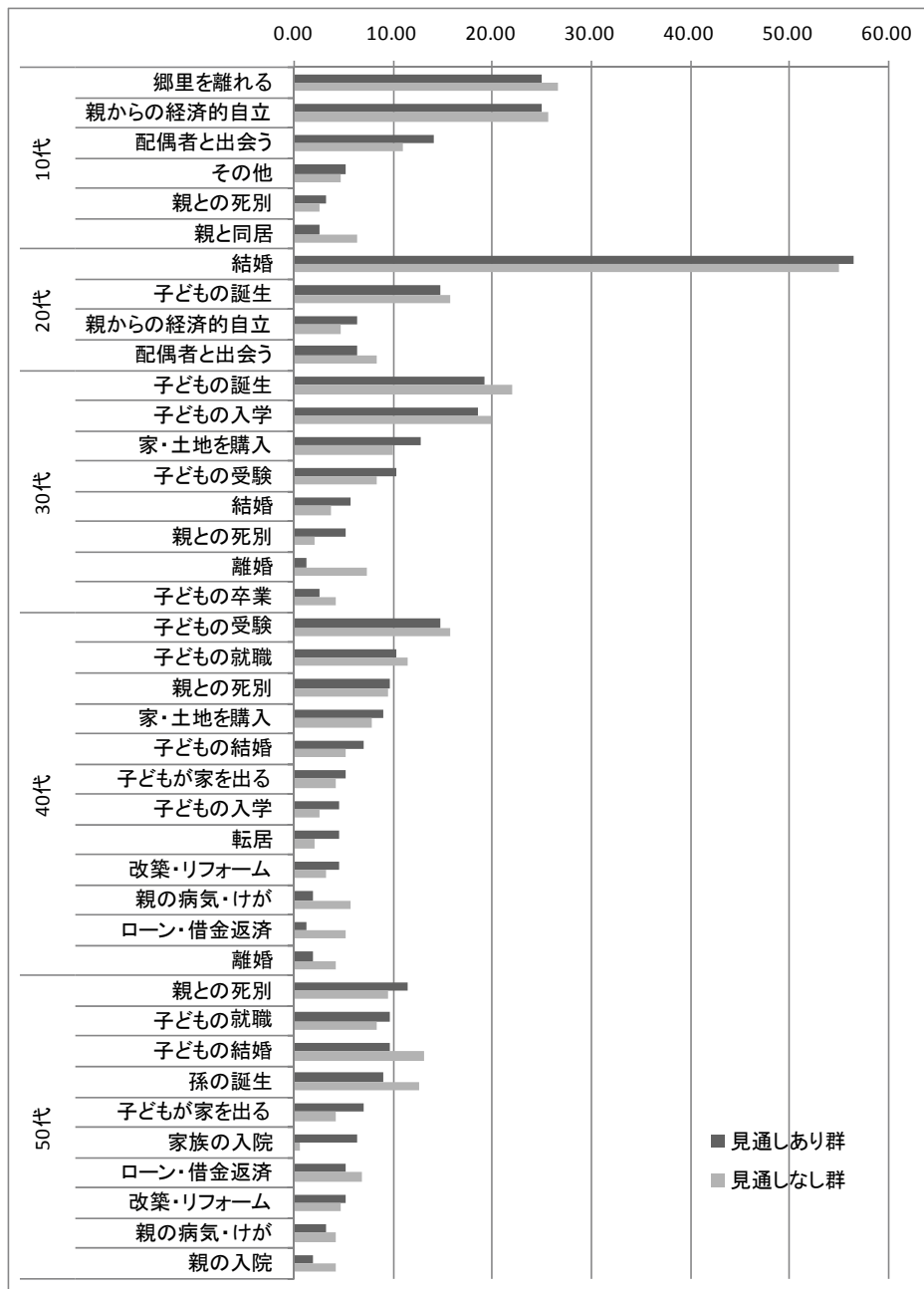
女性に関しても、男性と同様に、家庭に関するイベントとしてどのような項目が選択されているのかを「見通しあり」群と「見通しなし」群のそれぞれについて算出した(図表3-29)。さらに、両方の群でそれぞれあげられているイベントすべてをリストとし、各群でのイベントの選択率をグラフにしたものが図表3-30である。

図表3-29「見通しあり」群と「見通しなし」群の各年代の家庭生活イベント(女性)

| 年代 | イベント | % | 年代 | イベント | % |
|-----|-----------|-------|-----|-----------|-------|
| 10代 | 郷里を離れる | 25.00 | 10代 | 郷里を離れる | 26.70 |
| | 親からの経済的自立 | 25.00 | | 親からの経済的自立 | 25.65 |
| | 配偶者と出会う | 14.10 | | 配偶者と出会う | 10.99 |
| | その他 | 5.13 | | 親と同居 | 6.28 |
| | 親との死別 | 3.21 | | その他 | 4.71 |
| 20代 | 結婚 | 56.41 | 20代 | 結婚 | 54.97 |
| | 子どもの誕生 | 14.74 | | 子どもの誕生 | 15.71 |
| | 親からの経済的自立 | 6.41 | | 配偶者と出会う | 8.38 |
| | 配偶者と出会う | 6.41 | | 親からの経済的自立 | 4.71 |
| 30代 | 子どもの誕生 | 19.23 | 30代 | 子どもの誕生 | 21.99 |
| | 子どもの入学 | 18.59 | | 子どもの入学 | 19.90 |
| | 家・土地を購入 | 12.82 | | 家・土地を購入 | 9.95 |
| | 子どもの受験 | 10.26 | | 子どもの受験 | 8.38 |
| | 結婚 | 5.77 | | 離婚 | 7.33 |
| | 親との死別 | 5.13 | | 子どもの卒業 | 4.19 |
| 40代 | 子どもの受験 | 14.74 | 40代 | 子どもの受験 | 15.71 |
| | 子どもの就職 | 10.26 | | 子どもの就職 | 11.52 |
| | 親との死別 | 9.62 | | 親との死別 | 9.42 |
| | 家・土地を購入 | 8.97 | | 家・土地を購入 | 7.85 |
| | 子どもの結婚 | 7.05 | | 親の病気・けが | 5.76 |
| | 子どもが家を出る | 5.13 | | 子どもの結婚 | 5.24 |
| | 子どもの入学 | 4.49 | | ローン・借金返済 | 5.24 |
| | 転居 | 4.49 | | 離婚 | 4.19 |
| | 改築・リフォーム | 4.49 | | 子どもが家を出る | 4.19 |
| 50代 | 親との死別 | 11.54 | 50代 | 子どもの結婚 | 13.09 |
| | 子どもの就職 | 9.62 | | 孫の誕生 | 12.57 |
| | 子どもの結婚 | 9.62 | | 親との死別 | 9.42 |
| | 孫の誕生 | 8.97 | | 子どもの就職 | 8.38 |
| | 子どもが家を出る | 7.05 | | ローン・借金返済 | 6.81 |
| | 家族の入院 | 6.41 | | 改築・リフォーム | 4.71 |
| | ローン・借金返済 | 5.13 | | 子どもが家を出る | 4.19 |
| | 改築・リフォーム | 5.13 | | 親の病気・けが | 4.19 |
| | 親の病気・けが | 3.21 | | 親の入院 | 4.19 |

10代と20代では、選択されている項目がほぼ同じであり、選択率についても大きな違いはみられなかった。30代では、選択されている項目に若干の違いがみられ、「見通

しあり」群のみに見られた項目としては、「結婚」と「親との死別」がある。他方、「見通しなし」群のみに見られた項目としては、「離婚」、「子どもの卒業」があった。40代では、「見通しあり」群のみに「子どもの入学」、「転居」、「改築・リフォーム」という項目が見られた。他方、「見通しなし」群では、「親の病気・けが」、「ローン・借金返済」、



図表3-30 各年代におけるイベント選択率の群間比較(家庭項目:女性)

「離婚」というイベントが見られた。50代では、上位4項目は「親との死別」、「子どもの就職」、「子どもの結婚」、「孫の誕生」で共通である。ただ、それぞれの選択率が異なっており、「見通しあり」群では、「親の死別」、「子どもの就職」、「子どもの結婚」、「孫

の誕生」の順であるのに対して、「見通しなし」群では、「子どもの結婚」、「孫の誕生」、「親との死別」、「子どもの就職」という順である。「子どもが家を出る」、「家族の入院」、「改築・リフォーム」は、「見通しあり」群の方で高い。他方、「ローン・借金返済」、「親の病気・けが」、「親の入院」は「見通しなし」群の方で高くなっている。

家庭に関するイベントに関しては、男性の場合と同様に、仕事に関するイベントほど、「見通しあり」群と「見通しなし」群に違いは見られなかったといえる。

5. まとめ

本章では、10代から50代の各年代で、仕事および家庭に関して重要だと思った出来事を一つ選択させるという回答結果を整理し、分析した。回答方法が名義尺度の形式をとっていたため、分析の手法も基礎的な集計だけに限定されたが、50代の男性と女性が過去を振り返って見たときに、各年代で自分にとって重要だった出来事としてどのような出来事が選ばれるか、という概略は示すことができたと思われる。

まず、年代に関して選択された出来事の内容として、10代、20代という時期には、男女とも選択される出来事の数少なく、重要だと感じられる項目が限られているが、年代が上になるにつれて、個人差が大きくなり、選ばれる項目が多様になることがわかった。30代以降は、個々人の人生が様々に分岐していくプロセスであるといえよう。

特にそれは、仕事に関する出来事において顕著であった。仕事に関する出来事は、男性、女性、それぞれ別々にみた場合でもパターンが異なるし、男女間で比較した時もパターンが大きく異なっていた。他方、家庭に関する出来事については、男女で共通の出来事が選択されていることがわかった。各年代で若干違いはあるものの、家庭に関する重要な項目としては、男女ともだいたい選択されるパターンが共通であった。

さらに、10代から50代までに選択された出来事と、職業生活の見通しや、引退後の見通しとの関連について検討した結果では、特に仕事に関する出来事の影響が大きいことが示された。仕事の面で、大きな成功をおさめたり、昇進・昇格し、管理職になった場合には、見通しがあるという回答が多くなっていた。それに対して、見通しがない、という回答をしている場合には、「職場の対人関係でトラブル」という項目が多く選択されていることも、男女共通に見られた。一方、家庭についての過去の出来事は、職業や引退後の生活への見通しに特に関連をもたないようであった。

この章では、各年代で重要だと感じられた出来事に焦点をあてて結果を整理したが、ここでは取り上げなかった他の変数を組み合わせることで、より一層興味深い結果が得られることもあるだろう。その点については今後の課題としたい。